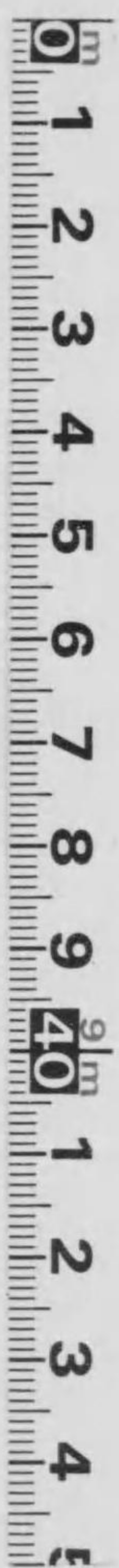
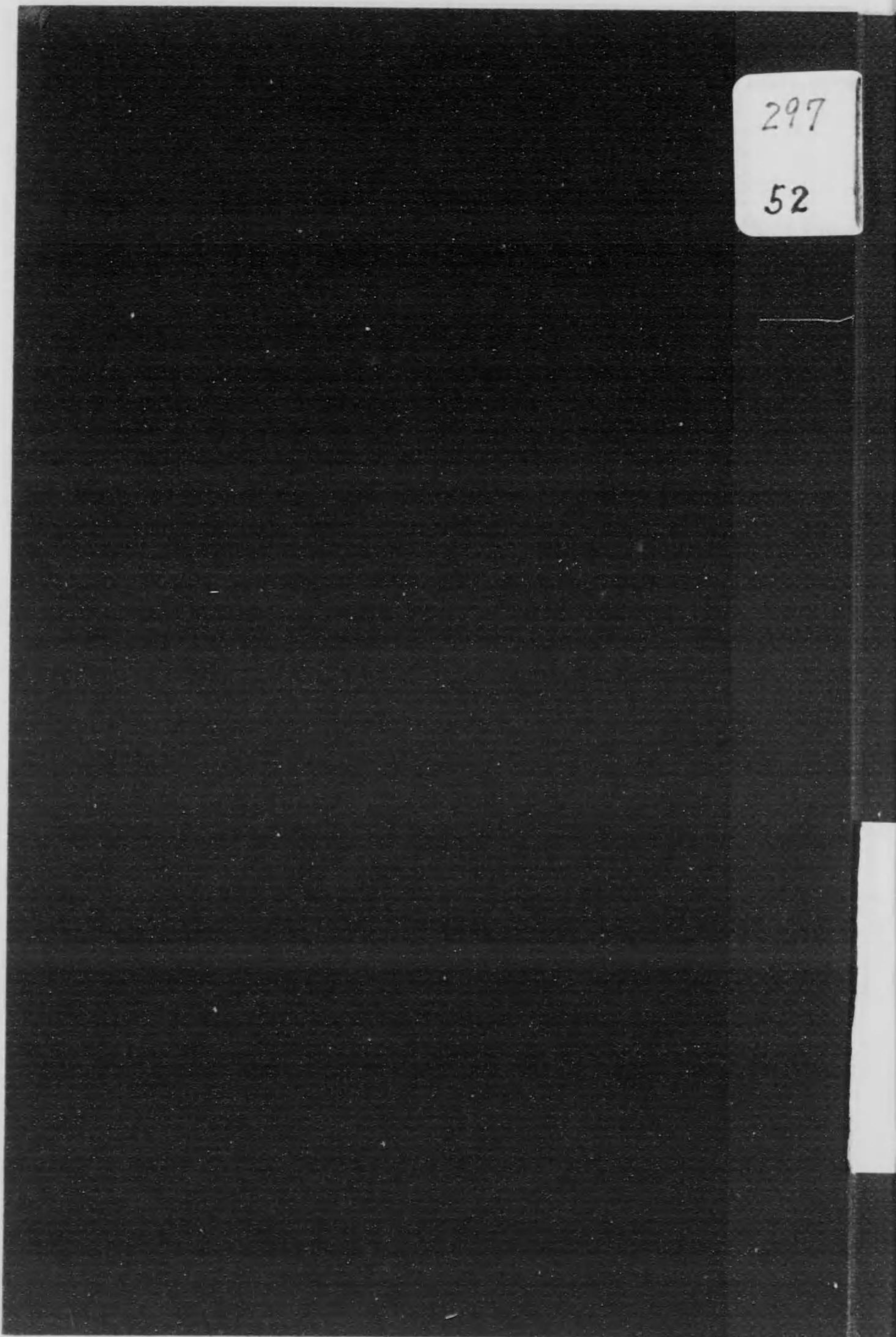


始



297  
52



ナ 5N 35

29  
1  
52

中隊教育研究會著

# 六週間現役兵の教育

全

東京 兵事雜誌社

297  
1  
52

序言

軍隊教育ト國民教育トハ實ニ密接ナル關係ヲ有スルモノニ  
 テ國民教育ノ良否ハ直チニ國軍ノ消長ニ影響スルハ幾多ノ  
 史ノ證明スル所ナリ。  
 今ヤ六週間現役兵トシテ入隊スルモノ毎年數千ノ多キニ達ス  
 邦家ノタメ誠ニ雀躍ニ堪エザル所ナリ然ルニ未ダ此種ノ教育  
 ニ關スル參考書ヲ發見スル能ハザルハ軍隊教育者ノ等シク遺  
 憾トスル所ニシテ近クハ新教育令ノ發布トナリ軍國ノ發展ト  
 共ニ教育上改善ヲ要スベキ點多々ナルヲ思ヒ此處ニ卑見ヲ陳  
 述シテ幾多ノ熱誠ナル軍隊教育者ノ御高教ヲ仰ガントス是レ  
 本書編纂ノ目的ナリ乞フ之ヲ諒セラレシコトナリ。

正シ  
 2. 7. 4  
 内交

大正二年三月

序言

著者記ス

# 六週間現役兵の教育目次

第一節	六週間現役兵教育令	一
第二節	六週間現役兵服役條令	二
一	六週間現役兵徵兵令	二
二	六週間現役兵條令拔萃	三
三	六週間現役兵條令施行細則拔萃	四
四	國民兵召集條令實施拔萃	六
第三節	入隊前ノ準備	七
一	編成中隊ノ選定	七
二	助教助手ノ選定	七
三	內務班ノ編成	八
四	支給品ノ注意	八
第四節	六週間現役兵教育計畫	九

目次



- 三食堂教育……………三八
- 四長上ニ對スル心得……………四〇
- 五公德心ノ養成……………四一
- 六洗濯教育……………四二
- 七大活音發聲……………四四
- 八徒手體操ノ體形及實施……………四五
- 九行軍ト遠足運動……………四六
- 十火災豫防教育……………四八
- 十一トラホーム豫防教育……………五〇
- 十二給料ノ使用法……………五五
- 十三擔任教師ト中隊幹部トノ比較……………五六
- 十四活模範ノ應用……………五七
- 十五精神教育手段……………五九
- 第八節 軍隊教育ト國民教育トノ關係……………六一

- 一國民教育者ノ軍隊教育者ニ對スル希望……………六八
- 二軍隊ニ於テ實施シ得ル國民教育者トノ連繫手段……………六九
- 三國民教育者ニ對スル軍隊教育者ノ希望……………七〇
- 第九節 新兵入營者ニ行フ豫習教育ニ就テ六週間現役兵ニ對スル希望……………七一
- 一教練……………七二
- 二學科ノ教育……………七三
- 三壯丁ノ監督方法……………七四
- 四豫習教育實施上ノ注意……………七五
- 五豫習教育豫定進度表……………七九
- 第十節 戊申詔勅ノ教育……………八〇
- 第十一節 軍人勅諭ノ五ヶ條ヲ兒童ニ鼓吹スル講話案……………八四
- 一五ヶ條ト五體……………八四
- 二五ヶ條ト五指……………八七
- 第十二節 兒童ニ軍人精神ヲ鼓吹スル手段……………九〇

目次

一 兒童ニ軍人精神ヲ鼓吹スル必要……………九〇

二 如何ニシテ軍人精神ヲ鼓吹スヘキカ……………九三

三 軍人精神ノ鼓吹ト方法各科目ニ就テ……………九五

第十三節 兒童ニ攻撃精神ヲ鼓吹セシムル手段……………一〇二

一 訓 話……………一〇二

二 術 科 教 育……………一〇六

第十四節 露國少年軍隊ノ要領ヲ述ヘテ六週間現役兵ニ望ム……………一〇九

# 六週間現役兵の教育目次終

軍隊教育研究會著

# 六週間現役兵の教育

## 第一節 六週間現役兵教育令

- 一 六週間現役兵教育ノ要ハ軍人ノ崇高ナル精神ヲ注入シ嚴正ナル動作ヲ教習シ併セテ軍事ノ梗概ヲ知得セシムルニ在リ抑々六週間現役兵ハ小學校ノ教職ニ在ルモノニシテ國民ニ建國ノ大本并ニ兵役ハ必任義務タルノ精神ヲ徹底セシムルノ責務ヲ有ス從ヒテ其軍事的修養ノ如何ハ帝國軍隊繼承者ノ素養ニ關係ヲ及ホスコト至大ナリ故ニ之カ教育ハ此趣旨ニ適スル如ク周到ナル注意ヲ以テ慎重ニ施行スルヲ要ス。
- 二 六週間現役兵ヲシテ國民ニ軍隊ノ眞價ヲ適切ニ紹介セシメンニハ之ヲシテ軍隊ノ實況ヲ正當ニ理解セシムルコト必要ナリ故ニ之カ教育ニ任スルモノハ

第一節 六週間現役兵教育令

綿密ナル注意ト各種ノ手段トヲ施シテ遺算ナキヲ要ス。

三 六週間現役兵ハ在隊期甚タ短少ナルヲ以テ軍人トシテノ諸般ノ要求ヲ完備セシムルコト至難ナリ故ニ其教育ハ要ヲ摘ミ取捨宜シキヲ得サルヘカラス而シテ精神ノ陶冶並ニ軍紀ノ涵養ニ資スヘキ嚴格ナル教練ニ最モ重キヲ置キ其他ハ一般軍事上ノ概念ヲ會得セシムルニ止ムヘシ。

四 聯隊長ハ六週間現役兵ヲ人員ノ多寡ニ應シ一若ハ數個ノ中隊ニ配屬シ其教育ハ通常聯隊ニ於テ之ヲ合シ選拔セル將校及下士ヲシテ行ハシムヘシ。

五 六週間現役兵ノ取扱ハ兵卒ト區別スルコトナシト雖教育ノ便ヲ圖リ成ルヘク一般兵卒ト居室ヲ異ニシ適當ナル上等兵若干名ヲ同室セシメ其指導ニ任セシムヘシ。

### 第二節 六週間現役兵服役條令

一 六週間現役兵徵兵令。

1 滿十七歲以上滿二十八歲以下ニシテ官立府縣立師範學校ノ卒業證書ヲ所

持シ官立公立小學校ノ教職ニ在ル者ハ六週間陸軍現役ニ服セシム其服役ニ關スル費用ハ官給トス。

前項ノ現役ヲ終リタルモノハ直ニ國民兵役ニ服セシム(國民兵役ハ分テ第一國民兵役第二國民兵役トス第一國民兵役ハ陸軍ニ在リテハ後備兵役又ハ召集セラレタル補充兵ニシテ其役ヲ終リタルモノ第二國民兵役ハ常備兵役後備兵役及第一國民兵役ニ在ラサルモノ之ニ服ス)。

2 服役中ノモノニシテ滿二十八歲迄ニ其教職ヲ罷ムルモノハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ更ニ二個年間陸軍現役假條例ノ豫備役後備役ニ服セシム。

3 國民兵ハ戰時若シクハ事變ニ際シ後備兵ヲ召集シ仍ホ兵員ヲ要スルトキニ限リ召集ス。

4 六週間現役兵ノ身長ハ五尺二寸以上トス。

二 六週間現役兵條令拔萃。

1 六週間現役兵ニ服セシムヘキモノハ教職ニ就キタル年又ハ其翌年ニ於テ其在職地師管内ノ歩兵隊ニ編入シ服役セシム。



- 2 六週間現役兵ハ毎年六月一日乃至十月一日ノ間ニ於テ入營セシム但シ疾病其他已ムヲ得サル事故ニヨリ入營期日ヨリ三日以内ニ入營シ難キモノハ翌年ニ於テ服役セシム。
- 3 六週間現役兵ノ服役日數ハ入營期日ヨリ起算ス(入隊日ヨリ起算シ四十二日目ニ除隊スルモノトス)。
- 4 六週間現役兵中勤務勉勵品行方正ニシテ第二國民兵ヲ以テ編成スル部隊ノ幹部タルヲ得ヘキ材幹アルモノニハ聯隊長其成績ヲ具シ順序ヲ經テ師團長又ハ之ト同等以上ノ權アル長官ノ認可ヲ受ケ國民軍幹部適任證書ヲ授與ス。
- 5 六週間現役兵ニシテ傷痍疾病ノ爲メ其役ニ堪ヘサル者ハ聯隊長之ニ退營ヲ命スルコトヲ得。
- 6 六週間現役兵ニハ現役兵トシテノ給料ヲ給セス。  
 検査ノ爲メ往復ノ旅費及入營旅費ハ官給トス。  
 六週間現役兵條令施行細則拔萃。

三

- 1 六週間現役ニ服スヘキ資格ヲ有スルモノハ其教職ニ就キタル日ヨリ二週間以内ニ官立府縣立師範學校長ノ卒業證書及在職小學校長ノ在職證明書ヲ本籍地ノ市町村長ニ届出ヘシ。
- 2 六週間現役ニ服スヘキモノハ身體検査ハ教職ニ就キタル年學校所在地ノ聯隊區内又ハ警備隊區内便宜ノ徵兵署ニ於テ之ヲ行フ但シ教職ニ就キタル期日ノ關係上其年身體検査ヲ行ヒ難キモノハ翌年廻シトス。
- 3 傷痍疾病其他已ヲ得サル事故ノタメ身體検査ヲ受ケ難キ場合ニ在リテハ本人ヨリ検査當日マテニ證據書類ヲ添ヘ其旨ヲ學校所在地所管ノ地方長官ニ届出ヘシ其届書ニハ學校長ノ奥書證印ヲ受ケ傷痍疾病ノモノニアリテハ尙ホ醫師ノ診斷書ヲ添附スヘシ。
- 4 傷痍疾病其他已ヲ得サル事故ニヨリ所定ノ期日ニ入營シ難キ場合ニ於テハ本人ヨリ證據書類ヲ添ヘ其旨ヲ學校所在地所管ノ地方長官ヲ經テ服役スヘキ軍隊ヲ統轄スル師團長ニ届出ツヘシ其届書ニハ學校長ノ奥書證印ヲ受ケ傷痍疾病ノモノニアリテハ尙ホ醫師ノ診斷證書ヲ添フヘシ。

第二節 六週間現役兵服役條令

- 5 小學校ノ教職ニ在リテ六週間現役ニ服スヘキモノ、服役中ノモノ若クハ服役ヲ終リタルモノ滿二十八歳以下ニシテ其教職ヲ罷メタルトキハ當該學校長ヨリ他ノ小學校ニ轉職シタルトキハ轉職前後ノ各學校長ヨリ三日以内ニ其旨ヲ其學校所在地所管ノ地方長官ニ届出テ同地方長官ハ之ヲ本人本籍地ノ市町村ニ通達スルト共ニ六週間現役ニ服スヘキモノ又ハ服役中ノモノニ就テハ諸隊又ハ服役中ノ諸隊ヲ統轄スル師團長ニ通知スヘシ。
  - 6 國民軍幹部適任證書ヲ有スルモノ懲戒處分家資分散若クハ破産ノ宣告ヲ受ケ又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ賭博犯ニ依リ處分セラレタルトキハ直チニ其旨ヲ本籍地島司郡市長ニ届出ヘシ但シ町村ニ在リテハ町村長ヲ經由スヘキモノトス。
- 四 國民兵召集條令實施拔萃。
- 1 國民兵動員令ノ達ヲ受ケタル郡長ハ之ヲ町村長ニ達シ町村長ハ召集令狀ノ交附ヲナスヘキモノトス、令狀ノ交附ニ接シタルモノハ該令狀ニ添附シタル受領證ニ記名捺印シ直チニ之ヲ返附スヘシ。

### 第三節 入隊前ノ準備

- 一 編入中隊ノ選定。
  - 2 召集ニ應スルタメ旅行ヲナスモノニハ其出發前ニ於テ旅費ヲ給ス但シ一日以内ヲ旅行シタル後ニ之ヲ給スルコトヲ得。
- 編入中隊ヲ幾何ニスヘキヤハ六週間現役兵ノ數ニヨリ一定スル能ハスト雖成ル可ク一中隊ニ一纏メトナシ統一セル教育ヲ行フヲ可トス若シ人員又ハ其他ノ關係上同一中隊ニ配屬シ得サル場合ニ在リテモ成シ得レハ二三ノ中隊ニ配屬シテ中隊毎ニ教官ヲ選定シ以テ軍隊教育ノ趣旨ヲ貫徹セシムルヲ要ス。
- 二 助教助手ノ選定。
  - 1 選定上特ニ顧慮スヘキ點ヲ舉クレハ。
  - 1 服従心ニ富ミ姿勢動作ノ嚴格ナルモノ。
  - 2 志氣旺盛ニシテ教練武技ニ熟練セルモノ。
  - 3 比較的常識ヲ有シ普通學ノ素要アルモノ。

三 内務班ノ編成。

六週間現役兵ヲシテ一般兵卒ト居室ヲ異ニセシムルハ新教育令ノ定ムル所ナリ。  
六週間現役兵全部ヲ以テ一内務班ヲ編成スルト各内務班毎ニ配當シテ教育内務班長ハ主トシテ内務上ノ教育ヲ行フスルトハ共ニ各利害アリ一内務班ヲ編成シテ教育スルトキハ教育班長ハ即チ内務班長ナルヲ以テ内務教育ト教練トノ統一連繫上有利ニシテ且ツ教育ニ便ナルト内務班ニ於ケル兵卒ノ缺陷ヲ彼等ニ暴露セサルトノ利アリ之ニ反シ各内務班毎ニ配屬シ一教育班長ノ下ニ教育スルトキハ前述ニ反スルノ外兵卒ト起居ヲ同シクスルヲ以テ軍隊内務ノ實行ヲ紹介スルニ便ナリ。

四 支給品。

六週間現役兵一室ヲ與フルトキト雖彼等ヲシテ交互ニ内務班ニ配屬シ兵卒ノ起居ヲ知ラシムルハ教育上最モ必要ナルコト、ス。  
一般兵卒ニ比シ良好ナル被服裝具ヲ支給スレハ彼等ノ慾望ヲ満足セシメ得ヘ

シト雖是レ教育本來ノ趣旨ニ合セサルヲ以テ現役兵ト同一程度ノモノヲ支給シ兵卒同様ニ起居セシメサルヘカラス。  
身長群ヲ抜クモノ亦少シトセス是等ノモノニ對シテハ入隊前壯丁名簿ニヨリ概ネ身體ニ適應スル被服ヲ準備スルカ又ハ通信ニヨリ胸部ノ狀態足ノ大サ等ヲ知リタル後ニ行フヲ可トスルコトアリ。

第四節 六週間現役兵教育計畫

抑モ六週間現役兵ノ教育ハ軍隊ト國民トノ連繫上最モ重要ナルモノナリ然ルニ其教育期間ノ短少ナルカタメ教育上最モ困難ヲ感スル所ナリ以下述フル教育計畫表ハ新教育令ニ基キ教育上ノ諸注意ヲ附記セルノミ。

1 各個教練。

各個教練ハ特ニ形而上ノ鍛練ニ意ヲ用ヒ散兵ノ教練ハ單ニ其概要ニ止ム。  
徒手教練ハ第一第二週ニ於テ其要領ヲ知得セシメ第三週ヨリ執銃教練ニ移ルヲ可トス第六週目ニ於テハ教育ノ方法、教材ノ選定、矯正ノ手段特ニ兒童ニ

教育スル教育手段等ニ涉リテ教育スルヲ可トス。  
文部省公示ノ學校教練ノ規定ヲ見ルニ。

教練ハ步兵操典ノ定ムル所ニ準據ス、其行フヘキ事項左ノ如シ。

氣ヲ付ケ、休メ、集マレ、解カレ、番號、整頓、行進、停止、足踏、右  
(左)向、半右(左)向、廻ハレ右、行進間、右(左)向其停止、行進間廻ハレ右、  
駆歩、方向變換、伍ノ重複分解、側面縱隊ヨリ橫隊、間隔及距離ノ開閉  
徒手小隊教練、徒手中隊教練、執銃各個教練、執銃小隊教練、執銃中隊  
教練、射擊散開、突擊。

而シテ小學校ニ於テ已ニ徒手小隊教練及執銃教練ヲ施行スルモノト規定  
セリ。

### 2 體操

體操ハ各運動ノ目的ヲ知ラシメ動作ノ確實ニ意ヲ用ヒ、徒手體操ノ要領ハ十分  
之ヲ會得セシメ且ツ器械體操ハ其幫助法ノ要領ヲ修得セシムルヲ要ス。

小學校ニ於テ實施スル體操ハ。

徒手體操。

下肢運動	平均運動	上肢運動	頭ノ運動
呼吸運動	胸ノ運動	背ノ運動	腹ノ運動
軀側方運動	ノ九區分ナリ。		

器械體操。

懸垂運動 跳躍運動ノ二區分トナシ水平棒、鐵棒竝行水平棒、橫梯、斜梯、助  
木、吊環、吊繩、吊棒、網梯、跳下臺、跳箱、跳越臺、二本ノ水平棒、二本ノ吊繩棒等ノ教  
材ヲ使用スルコトニ規定セララル。

### 3 銃劍術

銃劍術ハ基本演習ノミヲ行ヒ其目的ヲ知ラシメ特ニ氣力ノ養成ニ力ヲ用ユル  
ヲ要ス。

文部省公示ノ擊劍規定中ノ一節ニ曰ク。

擊劍ハ其主眼トスル所身心ノ鍛鍊ニ在リト雖特ニ精神訓練ニ重キヲ置クヘ  
シ技術ノ末ニ奔リ勝敗ヲ爭フヲ目的トスルカ如キ弊ヲ避クルヲ要ス。

第四節 六週間現役兵教育計畫

4 射擊

射擊程度ハ射擊教範ニヨリ且ツ成ルヘク應用及戰闘射擊ヲ見學セシムルヲ要ス。

射擊教育ハ第一週ヨリ開始シ第四週ニ於テ已ニ狹窄射擊ヲ開始セサルヘカラス、狹窄射擊及基本射擊習會ニ就テハ何等ノ規定ナキモ狹窄射擊二回基本射擊三回(又ハ四回)ヲ實施シ得ルニ過キサレヘシ例ヘハ。

距離	回数	姿勢	標的	服裝
二〇〇	第一回	依托立射	十圈的	執銃帶劍
三〇〇	第二回	依托伏射	圈頭的	背囊ヲ負フ
四〇〇	第三回	伏射或ハ膝射	散兵的	軍裝

5 中隊教練

中隊教練ハ小隊ノ教練迄トシ主トシテ密集教練ニ力ヲ用ヒ成ルヘク中隊以上ノ諸教練ヲ見學セシムルヲ要ス。

分隊小隊教練ハ第六週目ニ行フ、優秀ナルモノニハ兩翼分隊長ノ動作及分

6 陣中勤務

隊ノ指揮ヲ行ハシム。  
一二回現役兵ト合併セル小隊ヲ編成シ小隊ノ運動及戰闘教練ノ經過ヲ教育スルヲ可トス。

陣中勤務ハ歩哨、斥候、傳令勤務ノ概要ヲ教育シ成シ得レハ行軍、宿營等ニ參與見學セシムルヲ要ス。

野外演習ハナルヘク晝食ヲ携行シ晝食時ヲ利用シテ舍營、警急舍營、露營ノ設備等ヲ實地ニ教育スルヲ可トス。  
行軍ノ回数ハ一二回ヲ以テ足レリトセン、行軍中ト雖成ルヘク學術科ヲ施行シ特ニ大休止時ヲ利用シテ小哨、尖兵ノ休止法及食事法等ヲ實地ニ教育スルヲ可トス。

7 作業

作業ハ築城ノ目的及用法ヲ説明シ簡單ナル散兵壕ヲ構築シ得ルヲ程度トス。

第五節 六週間現役兵教育上ノ所感

一 入隊時ノ状態

入隊時ノ服装ニヨリテ平素ノ人格素行等ヲ窺ヒ知り得ルヲ以テ注意スルヲ要ス例ヘハ。

- 1 帽子ノ裏ナキモノ。
  - 2 和服ニ袴ヲ着用セサルモノ。
  - 3 服装華美ニ流ル、カ又ハ甚シク野鄙ナルモノ。
  - 4 斬髪ヲ要スルモノ。
  - 5 個人衛生ノ状態。
- 和服整頓ノ方法。
- 和服ノ疊ミ方ヲ點檢セルニ。
- 1 羽織ノ疊ミ方ヲ知ラサルモノ約二分ノ一。
  - 2 單衣ノ疊ミ方ヲ知ラサルモノ約二分ノ一。

3 和服用袴ノ疊ミ方ヲ知ラサルモノ約三分ノ一

兒童教育者ニシテ和服ノ疊ミ方ヲ心得サルハ適當ナラス。抑モ學校教育者ニシテ體操又ハ遊戲中到ル所ニ羽織ヲ脱セシメナカラ更ニ之ガ整頓ノ方法ヲ監督スルコトナク全ク放任セシカ是レ遂ニハ國民性トナリ國民ノ不規律放縱ヲ増長セシムル原因トナルヘキナリ。

二 六週間現役兵ニ通有セル美點

短時日ノ教育中此美點ヲ發見スルハ甚タ困難ナルモ強ヒテ之ヲ求ムレハ。

- イ 協同一致ノ精神 一般下士以下ニ比シ優レルカ如シ是レ學校生活中已ニ協同生活ニ慣熟セルカタメナラン。
- ロ 研究心 枝葉ニ走り皮想的ニ陥ルモノ少カラスト雖研究綿密ニシテ特ニ兒童教育ニ資セント努力スルモノ多キヲ見ル。
- ハ 兒童トノ通信 擔任兒童トノ通信ヲ行ヒ軍隊生活ノ愉快ヲ兒童ニ示シテ將來ノタメニセントスルハ誠ニ美ハシキコトナリ。
- 三 六週間現役兵ニ通有スル缺點

- 1 側面觀ヲナスモノ多シ 軍隊教育ニ關シ正當ナル觀察ヲナスコト少ナク側面寧ロ背面觀ヲナスモノアルヲ見ル、或者ハ一二兵卒ノ動作ヲ目撃シテ以テ軍隊ノ供通性ト速斷シ、或者ハ六週間現役兵教育ノ根本主義ヲ忘却シ甚シキニ至リテハ軍隊ノ服從ハ形式ニアラスヤナド質問スル者アルコトアリ。
- 2 在營期ヨリ速カニ脱セントスルモノ多シ 短時日ノ教育ナレハ萬難ヲ排シテ研究スヘキ筈ナルニ寧ロ速カニ歸郷センコトヲ欲シ入營日ヨリ已ニ歸郷日ノ日數ヲ計算シテ憚ル事ナキ者アルヲ見ルハ誠ニ嘆スヘキ事ナリ。
- 3 持久力少ナシ 入隊前ニ於ケル起居ノ關係上激動ニ堪エサルハ已ムヲ得サルヘシ然レトモ其精神ニ於テ已ニ激動ヲ忌避シ遂ニハ困苦缺乏ニ打チ勝タルトスル精神ヲ没却スルカ如キ者アルヲ見ルコトアリ。
- 4 常識ニ乏シ 入隊時被服ノ整頓法ヲ心得サルカ如キ又ハ歸郷後軍隊教育者ニ宛テタル書翰等ニヨリテ見ルニ常識ニ乏シキモノ少ナカラス。
- 四 六週間現役兵ニ通有スル質問。
- イ 軍隊教育法ハ注入的ニシテ形式ヲ主トシ内容ニ及ハサルカ如キ感アルモ

如何。

- ロ 軍隊生活ハ無嗜好ナルカ如キ感アリ。
  - ハ 兵卒ハ果シテ誠心ヨリ上官ニ服從スルヤ。
  - ニ 兵食ハ材料ニ比シテ美ナラス調理法ニ缺點ナキヤ。
  - ホ 教育勅語ハ摘講セサルヤ。
  - 五 二部生(中學校卒業後一ケ年間師範學校ニ於テ教育ヲ受ケタルモノ)ト本科卒業生トニ優劣アリヤ。
- 此研究ハ衛戍地ノ狀況等ニヨリテ差アルヲ以テ茲ニ決定スル能ハスト雖モ從來ノ經驗ニ徵スルニ二部卒業生ハ本科卒業生ニ比シ志氣旺盛ニシテ進取ノ氣象ニ富ミ且ツ一般研究心ニ富ムモノ多キヲ見ル。
- 六 師範學校ト六週間現役兵トノ連繫。
- 此連繫ハ教育上最モ重要ナルモノニシテ衛戍地ニアル母校ノ職員又ハ生徒ヲシテ時々教育ノ狀況ヲ視察セシムルヲ得ハ其効果甚大ナリ之カ爲メニハ左ノ如キ方法ヲ設クルヲ可トセンカ。

イ 師範在學中ノ古參生徒ヲシテ教育ノ狀況ヲ視察セシムルコト。

ロ 師範學校職員ノ視察ヲ獎勵スルコト。

ハ 幹部適任證書ヲ附與スル時ニハ師範學校職員中若干ノ來席ヲ望ムコト。

七 日誌ノ記入ヲ勵行スルコト。

一ハ以テ整理心ヲ養成セシメ一ハ以テ軍隊教育ノ誤解ヲ豫防スル爲メ日常ノ事項ヲ細大トナク記入セシメ教官ハ毎日之ヲ點檢ス、記載事項ハ一定スル能ハサルモ例ヘハ。

イ 演習記事。

ロ 演習所感。

ハ 軍人精神ノ養成。

ニ 軍隊教育ニ則リ將來參考トナサントスル事項。

ホ 軍隊教育ノ方法、手段及各種矯正法。

八 六週間現役兵ト普通現役兵トノ間柄。

兩者ノ親睦ハ豫後備兵ニ對スル現役兵ノ如キ關係ヲ見スト雖モ六週間現役兵

ハ歸郷ノ後専ラ市町村ノ爲メ盡瘁スヘキモノナルヲ以テ一般兵卒ヲシテ常ニ此念ヲ沒却セシメサラシムルヲ要ス。

若シ兵卒中素行修マラサル者アラハ同郷ノ六週間現役兵ヲ利用シテ訓諭セシムルモ亦確カニ効果アリ。

食後等ノ休憩時ヲ利用シ六週間現役兵ヲシテ一般兵卒ニ勇壯ナル唱歌ヲ教育セシムルヲ得ハ兵卒ニ優美ナル精神ヲ鼓吹スルヲ得ヘシ。

一般兵卒ト共ニ學科教育ヲ行フトキハ一般兵卒ノ應答及學力ノ定度等ヲ窺ヒ知ラシムルニ好機會ナルヲ以テ機ヲ見テ實施スルヲ可トス。

### 第六節 六週間現役兵ニ對スル將來ノ希望

一 軍隊ニ對スル地方ノ嗜好ハ不正當ナリ。

在郷軍人中軍隊ノ嗜好ヲ針小棒大恰モ地獄ノ如ク吹聴スル者アルヲ認ムルハ頗ル遺憾トスル所ナリ嘗テ之ヲ調査ヲナシタルニ其嗜好數十ニ達セリ例ヘハ、  
食物ノ不足。 四角四面ナ所。

第六節 六週間現役兵ニ對スル將來ノ希望



古兵ノ殘酷。 水吸ガツライ。  
 古兵ガ仕事ヲ命ズル所。 名譽(高等)監獄。  
 規則ノ八ケ間敷イ所。 ツライ所。  
 暇ノナイ所。 寒イ所。  
 受診スレバ成績ガ悪イ。 演習ノ時倒レル。  
 窮屈ナ所。 口答ヒガ出来ヌ。  
 小供扱ニサレル。 上官ガ恐ロシキ所。  
 外出スレバ成績カ悪イ。 體裁ヨキ監獄。  
 支給品ノ手入ガ悪シケレバナナグラル。  
 新兵ガ酒保ニ行ケバナナグラル。  
 マゴク スレバ飯ハ食ヘヌ。  
 晝ノ悪イコトハ夜寝テカラヤラレル。  
 入隊時ハ御客様タガ十五日モ過ギレバツライ。  
 缺禮スレバ營倉ニ入レラレル所。

新兵ガ金ヲ持テバ古兵ニ借リラル。  
 國民ノ大學校タル軍隊カ果シテ斯クノ如キ所カ宜シク其眞否ヲ質シ噂ノ原因  
 ヲ研究シ世人ノ誤謬ヲ解カレンコトヲ望ム。  
 二 入隊時虚飾ノ禮式ヲ全廢スヘシ。  
 嘗テ入隊セル新兵ニツキテ調査セルニ。

一人カ受ケタル餞別金		一人カ寄送セラレタル旗ノ數	
人	員	總	數
七五	人	七五	人
六八一	圓	五二五	
九〇〇	圓	一六	人
五〇〇〇	圓	一	
二	人	七	

第六節 六週間現役兵ニ對スル將來ノ希望

殊ニ見送リノ旗一本ハ二三十圓ニ價スルニ至ルト云フ是レ旗ノ御禮トシテ友人親戚ヲ招待スルヲ慣例トスルカ爲メナリ故ニ之カ豫防法トシテハ左ノ如キ

要領ニ準セハ斯ノ如キ弊害ヲ除去スルヲ得ンカ。

1 旗ハ分會又ハ青年會ニ於テ一本ヲ共同的ニ永久使用ス例ヘハ「送入營兵何  
何青年會等ノモノヲ用ユ。

2 最モ近キ親戚ノ外、餞別ヲ行ハス。

3 組合又ハ友人間ノ餞別ハ團隊ニテ葉書又ハ作文書ヲ送ルヲ以テ足レリト

ス但シ壹圓以下ニテ十分ナリ。

三 入隊時ノ携行品ヲ制限スルコト。

入隊當時各平均五圓ノ携帶金ヲ有シ約五分ノ一ノ壯丁ハ時計ヲ携行スルハ例  
年ノ實驗ニ照シテ明カナリ。

「金錢ハ聯隊長ノ制限セシ以上ヲ所持スヘカラス且ツ互ニ之ヲ貸借スルヲ禁  
ス。

ト是レ軍隊内務書ノ要求スル所ナリ然ルニ地方一般ノ狀況ヲ見ルニ父兄ノ多  
クハ入營者ヲ嚴ニ戒メテ曰ク「他國ニ在リテ心頼ミトナスモノハ金錢ノ外ナシ  
今數金ヲ汝ノ守護符ニ投ス如何ナル事情アリト雖モ此金ハ上官ニ出ス勿レ管

汝カ萬一ニ備フヘシト。

而シテ又入隊後ト雖モ何等ノ理由ナク金錢ヲ送附シ來ルモノ、面會人ニ依頼ス  
ルモノ、小包ト共ニ送金スルモノ、衛戍地ノ知己ニ送金シテ依頼スルモノ、買物ノ  
殘金ヲ入隊者ニ受領セシムルモノ等枚舉ニ遑アラズ嗚呼果シテ兵卒ハ給料ヲ  
以テ自活シ得サルヤ否ヤ。

兵卒ノ給料額ヲ各國兵卒ニ比較スルニ帝國ノ給料ハ決シテ寡少ニ非サルナリ。

各國兵卒給料比較表

等級	獨逸	奧太利	佛蘭西	露西亞	英吉利	日	本
上等兵	四、〇五	二、五〇	三、三六	〇、六〇	一八、七五〇	一、九五	一、九五
一、二等卒	三、三〇	一、五〇		〇、五〇	一五、〇〇〇		

余ハ六週間現役兵ヲシテ兵卒給料ノ消費要領並ニ消費上ノ注意ヲ述ヘ然ル後  
彼等ノ携行金全部ヲ預カリ毎旬五十二錢ヲ支給シテ金錢消費ノ研究ヲナサシ  
メタルニ其結果頗ル良好ニシテ大ナル自信力ヲ與ヘシムルヲ得タリ。

各中隊ニハ時計ヲ設備シテ一般兵卒ノ用ニ供スルヲ以テ兵卒個人トシテ時計

第六節 六週間現役兵ニ對スル將來ノ希望

ノ必要ヲ認ムルコトナシ加之多クノ罪惡ハ時計ニヨリテ媒介セラレ奸商ノ來リテ無智ノ兵卒ヲ胡魔化スアリ兵卒自ラモ亦現金同様ニ使用貸借シ催促スレハ修繕中ト稱シテ罪惡ヲ續行シ遅刻者ヲ取調フルニ時計カ後レテ居リマシタナド犯罪ノ申シ譯材料トナスモノモ亦少カラス、奈破倫カ部下ヲ誡メテ「間違フ様ナ時計ハ宜シク捨フヘシト」嗚呼小人玉ヲ抱キテ罪アリ是レ時計ヲ嚴禁スル所以ナリ。

#### 四 言 語

「單簡平易ナル言語ヲ用ユルハ戰爭ニ於テ極メテ必要ナリ故ニ平時ニ於テモ勤務間ハ勿論燕居ノ際ト雖此ノ軍人ノ言語ニ慣レシムルヲ要ス」。

新兵ノ入營スルヤ勉メテ平易ナル言語ヲ以テ接スルト共ニ地方ノ訛言ヲ指示シテ之カ改善ヲ圖ルハ最モ必要ナリ時トシテハ五十音ヲ唱セシメ或ハ一二ノ呼唱ヲ各自唱セシメ或ハ官姓名ヲ自唱セシムル等皆ナ有効ナラサルハナシ。兵卒ノ多クハ上官ノ面前ニ在リテハ良ク之カ實行ヲ見ルモ一度内務班ニ歸リテ地方同僚ト談スルヤ直チニ訛言、俚言ノ丸出シトナリ練兵場ノ教育ヲ阻碍ス

ルコト少ナカラス。

六週間現役兵入隊當時ノ言語モ概ネ新兵ト異ナルナク其缺點ヲ列舉スレバ。

- 1 不明瞭、不單簡ニシテ奇異ノ言語ヲ用ユ。
  - 2 俚言、訛言多シ。
  - 3 音聲低ク語尾甚タ不明ナリ。
  - 4 長上ニ對スル言語ト同僚相互ニ使用スル言語トノ區別悉無ナリ。
- 以上ノ缺點ヲ矯正スル爲メ新兵教育當時ト同一要領ニ準セサルヘカラス特ニ短時日ノ教育トシテ傳令演習等ニ特別ナル時間ヲ配當シ得サルヲ以テ休憩中又ハ練兵場往復時ヲ利用スルヲ可トス。

器械體操實施ニ當リ動作前必ス自己ノ官姓名ヲ發唱セシメ言語教育ノ補助トナシニ獨リ其目的ヲ達スルニ有効ナルノミナラス彼等ヲシテ己カ責任ヲ自覺セシムル手段トナリ一層ノ奮勵心ヲ發揮セシムルニ至レリ。

#### 五

兩便ノ教育。

兩便所ヲ清潔ナラシムルノ必要ハ世人皆ナ之ヲ説クト雖モ兒童教育ニ於テ之

カ完全ヲ期スルハ或ハ困難ナラン然レトモ便所ヲ學級又ハ大字別ニ配當シテ其使用區分ヲ明カニセハ一ハ共同的精神ノ養成上一ハ公德心ノ教育ニ利スル所アルヲ見ン。

兩便ノ時機ヲ教育スルハ軍隊ニ在リテハ特ニ必要ナリ例ヘハ大便ハ朝食前後小便ハ常ニ仕事ヲナサントスル以前ニ豫メ行フカ如シ。

大便後ニ於ケル肛門ノ拭淨法ハ最モ綿密ニ教育セサルヘカラス是レ吾人カ毎月一回軍醫ノ施行スル兵卒ノ身體検査ニ立チ會ヒ益々此感ヲ深クスル所ナリ今新兵入隊當時ノ肛門拭淨教育ヲ列舉シテ參考ニ供セントス。

1 最初ノ紙ヲ以テ肛門附近ノ荒掃除ヲ行ハシム。

2 第二回目ニハ先ツ下腹部ニカヲ入レテ肛門部ヲ外方ニ露出セシメ其間ニ精密ナル拭淨ヲ行フ。

3 第一回ニ準ス。

六 小學校ノ器械體操。

器械ノ破損敷砂ノ硬軟ヲ點檢シタル後ニアラサレハ器械體操ヲ實施スヘカラ

ス然ルニ各地小學校(余カ嘗テ實施セル六週間現役兵中ニハ器械體操場ヲ有セル學校ハ約三分ノ一ノミ)ノ體操場ヲ見ルニ數十日間敷砂ヲ掘開セサルハ愚カ全ク敷砂ノ設備ヲ缺クモノ少ナカラサリシ。

監督ナキ器械體操ノ實施ハ軍隊ト雖モ嚴禁スル所ナリ然ルニ未タ何等ノ順序的教育ヲ施サ、ル多クノ兒童ヲ危險ナル器械ノ下ニ放任シ下駄ヲ穿チタルマ

マ何等ノ監督ヲ受クルコトナク獨力ニテ自修ヲ行ハシムルヲ見ル實ニ寒心ニ堪エサルナリ冀クハ擔任教師自ラ進ミテ順序的教育ヲ行フト共ニ嚴密ナル幫助ノ下ニ勵行セラレシコトヲ。

七 一般壯丁ノ身長。

嘗テ陸軍戸山學校ノ調査ニヨル歐洲人ト本邦人トノ體重比較ヲ見ルニ。

性別	身長		重量	
	歐洲	本邦	歐洲	本邦
男	五、五四	五、二五	一七、三〇〇	一五、〇〇
女	五、二一	四、八四	一五、六〇〇	一三、〇〇

第六節 六週間現役兵ニ對スル將來ノ希望

明治四十三年度ノ本邦壯丁ノ身長ハ左表ニ示ヌ如クニシテ壯丁四十萬ニ對シ五尺以下ノ者五萬七千ノ多數ニ達セリ各師管共ニ總員ノ一割ハ即チ是レナリ岐阜福岡千葉福島鹿兒島佐賀宮崎ノ諸縣ハ前年ニ比シ成績著シク減少セリ。

師管	壯丁ノ身長別										計
	五尺六寸以上	五尺五寸以上	五尺四寸以上	五尺三寸以上	五尺二寸以上	五尺一寸以上	四尺九寸以上	四尺八寸以上	四尺八寸未滿	不能者	
第一師管	九五〇	一、九五九	四、三六八	七、四八三	九、七五五	七、七二二	三、九八二	一、七三三	一、〇二四	三九一	四八、五六八
第二師管	四八五	一、二一八	三、五九六	四、八二三	六、四四二	六、〇〇三	四、一八四	九六六	五、四六	一八五	二九、八九六
第三師管	五三三	一、二七	三、五六七	四、一三五	五、三四四	五、〇一三	三、六四四	八二〇	三、七三	一五二	三五、四三八
第四師管	六四一	一、三四	三、四〇	四、〇一〇	四、八七	四、三二二	一、四三〇	五八七	三、〇	一〇一	三三、八八七
第五師管	四三三	八九四	二、一〇八	三、六七三	四、五七三	四、三三三	三、二二六	六七一	三、六	七一	二二、七〇八
第六師管	三六一	九二六	一、九六	三、六四七	四、六九	四、七四六	三、九四四	一、〇九	八九九	一八五	二四、五六八
第七師管	二九三	五七七	一、二九	二、〇八六	三、三四六	一、九四一	五〇八	二二四	九一	一〇六	一〇、六〇三
第八師管	五〇三	一、三二	三、四六	四、七七一	五、一〇八	四、三三四	二、八四三	五四九	二九四	一九五	三三、八四二
第九師管	三三八	七九六	一、八一九	三、三三三	四、三〇六	四、一九四	三、一九二	六三二	三〇〇	九七	二〇、五五三
第十師管	五三三	一、〇四	二、一〇	三、四九一	四、一八	三、七七九	一、三六六	五五	三〇〇	一一三	一九、九三三
第十一師管	四〇三	八〇五	二、一〇九	三、〇九	四、三六九	四、一五九	一、六九二	六三九	四五六	七六	二二、〇六一

八 衛生思想

1 衛生思想ノ必要ヲ説クヲ略シ本邦ノ衛生状態ヲ左ニ述ヘントス。

明治四十四年度ノ傳染病概算		患者	死者	亡
病名	患			
虎列刺	一、九八八	三、二七六	一、三八五	五九八
赤痢	一、〇〇一	四、〇三〇	二、五〇七	一、〇一一
チブス	二、七三四	五、〇二五	三、一八九	九三三
總計	五、七一二	一六、八二六	一〇、一五二	三、〇一五

第六節 六週間現役兵ニ對スル將來ノ希望

九	二七四六四	六〇〇〇	六八一三
九	三四〇七九	六〇〇〇	六八一三

實布埜利亞	痘紅熱病	バラチブス
二〇〇五二	一三三九	二二二四
五二一三	二〇〇	二二二四
	三四	二二二四

全國小學校教師ノ疾病者中千ニ對スル四十三ハ不治ノ肺結核症患者アリタリ  
 世界中最モ肺結核症ノ多キハ活版及棉花職工ナルカ我カ小學校教師ハ夫等ヨ  
 リモ尙ホ高率ヲ示セリ。

2 花柳病。

米國ノ「モルロ」氏ノ語ル所ニ依レハ同國內嫩衝性疾患ニ係ル死亡者ノ八割  
 婦人ニ特殊ナル外科手術ノ七割五分、凡テノ婦人科病ノ六割ハ此方面ノ諸病  
 ニ起因スト云フ更ニ之ヲ生兒ノ健康ニ就イテ見ルニ眼炎ノ八割、盲目ノ二割  
 五分ハ父母ノ花柳病ニアリト云フ。  
 本邦花柳病患者ヲ壯丁ニツキテ調査セル結果ヲ左ニ示ス。

府	縣	毒	軟	下	疳	疥	疾	計	千	分	比	例
北海	道	六八	八五	一七二	三二五	二〇						
東京	都	一一四	三五八	六二七	一〇九九	四九						
大阪	府	五八	四四	二四〇	三四二	三七						
神奈	川	七三	一一六	三〇四	四九三	三三						
兵庫	府	一六	六六	一八八	二七〇	二九						
長崎	縣	九八	一七二	四〇一	六四一	三九						
新潟	縣	六〇	一三	二〇八	三五六	四三						
群馬	縣	四三	八五	一六一	二三四	一五						
千葉	縣	六九	一一	一八五	二二七	一六						
茨城	縣	三六	八〇	一九六	二九六	一七						
栃木	縣	八四	五二	一四〇	二七六	一七						
奈良	縣	六三	四一	一四〇	二七六	一七						
三重	縣	四〇	一七	七四	一五八	一八						
和歌山	縣	五一	四〇	九六	一八七	二一						

第六節 六週間現役兵ニ對スル將來ノ希望

清 關 樺 臺 沖 鹿 宮 熊 佐 大 福 高 愛 香 德 和 島 山

兒 歌

國 東 太 灣 繩 島 崎 本 賀 分 岡 知 媛 川 島 山 根 口

二 四 | 一 三一 七八 二九 七二 九八 二四 五四 三〇 四九 一五 二四 二二 二八 四五

| 五 二 一七 五三 六二 二八 七三 二四 一七 五八 二〇 二九 五一 五五 一八 三七 一七

二 三九 二 一〇六 二一六 一二七 二七三 二一〇 九六 二四九 二三〇 一八八 一〇三 八二 六二 一六三 一一二

四 四八 四 三〇 一九〇 三五六 一八四 四一八 三三二 一三七 三六一 二八〇 二六六 一六九 一六一 一〇二 二二八 一七三

九八 六三 一三 四五 四四 三三 四三 四〇 五四 二二 二五 五一 三二 二七 二八 一七 四二 二一

第六節 六週間現役兵ニ對スル將來ノ希望

廣 岡 島 富 石 福 秋 山 青 岩 福 宮 長 岐 滋 山 靜 愛

島 山 根 山 川 井 田 形 森 手 島 城 野 阜 賀 梨 岡 知

五三 二八 六 二〇 二二 五 三〇 二五 三四 三九 二二 四九 三〇 四八 二〇 八 六七 六七

七 一 五 九 二九 七二 一八 一七 一六 五 七 一七 一四 二五 二九 三四 九 四〇 七六

二一六 一二八 六九 一四四 九六 三五 七五 五九 五四 八二 九八 二二二 一七九 一〇 四一 一四三 二二六

三四〇 一七一 八四 一九三 一九〇 六二 一九九 一六 九八 一〇〇 一一一 一六一 二七七 二五六 一七四 五八 二五〇 三六九

二六 一八 二五 三一 三一 一二 二七 一四 一六 一五 一一 一九 二二 二九 二八 一一 二一 二四

朝	一八	三〇	六三	一一一	六二
計	二、一三八	二、三二九	七、三二三	一一、七九〇	二七

茲ニ最モ注意スヘキハ徵兵検査當時何等ノ缺點ヲ有セザリシ青年カ入隊ニ際シ已ニ花柳病ニ犯サレアルコト是レナリ、明治四十四年度某師團徵兵検査人員二萬五千人ニ對シ検査當時ニハ四十七名ノ花柳病患者ナリシモノハ入隊當時ニ至リ百五十七名即チ約四倍ノ増加ヲ見ルニ至リシ事アリ。

又某師團四千三百人ノ入隊者中入隊當時已ニ九百人即チ百人ニ對シ二十一人ノ疾病者ヲ見シカ如キ軍國ノタメ又憂フヘキ哉。

是等ノ豫防方法ハ一ニ壯丁ノ入營前ニ於ケル社會教育及初年兵入隊前ノ豫習教育ニマタサルヘカラス。

米國ノ「モルロー」氏カ嘗テ千二百ノ學校ニ宛テ花柳病問題ニ對スル返答ヲ求メタリ其要旨ハ。

1 青年少年ニ生理及衛生的ニ性ノ問題ヲ知ラシムルコトノ可否。

2 可ナリトスルモ之ヲ學校ニ課シ得ヘキヤ。

3 課シ得ヘシトシテ其方法及程度。

右ニ對スル返答ハ大體ニ於テ之ヲ可トスルモノ多ク只意見ノ異ナルハ其方法及程度ニ關シテノミナリシト云フ吾人ノ茲ニ之ヲ記載スル所以ハ國民教育ニ之ヲ課スルノ利害ヲ研究セルニアラスシテ寧ロ壯丁カ入隊前如何ナル方法ニ依ラハ花柳病ヲ豫防シ得ルヤニ就キテ國民教育者ニ質サンガタメナリ。

各師團別徵兵不合格者。

病名	第一師團	第二師團	第三師團	第四師團	第五師團	第六師團	第七師團	第八師團	第九師團	第十師團	第十一師團	第十二師團	第十三師團	第十四師團	第十五師團	第十六師團	第十七師團	第十八師團	計	千分比
筋骨薄弱	四	六	四	七	一六	二七	二七	八二	三三	三〇	五七	一七	七〇	四一	三三	一七	三三	六三	七〇	一、六
全身發育不全	二七	五	六	三	一三	三五	一三	八七	六	一一	二四	二	二	六九	一六	一〇	五	四二	四二	〇、九七
精神病	一〇	四	四	三	六	二七	一八	四七	六	三	二四	一七	二八	五九	六	二七	四	六三	六三	一、五
癩病	一七	二	二	三	三	七	八	三三	二	一九	三	三	八	二二	二	一九	一七	四	四二	〇、九
眼病	四〇	一六	二四	三三	二六	三五	一三〇	二七六	四六	三五	一〇	三三	二七	一〇	二	二	二	二	四八	一、〇
一眼盲又ハ兩眼盲	四	二	三	九	一〇	一七	一三	二九	一六	一〇	二	一	一	一	一	一	一	一	一	〇、〇

第六節 六週間現役兵ニ對スル將來ノ希望



指ノ不可ナルモノ	重キ關節畸形	脱肛痔	ヘルニア	肺又ハ胸膜炎	啞	兩耳聾
一三	二四	三	八	一〇	一九	二七
一〇九	二〇三	六	八	五八	九四	六
二七	九二	四	七	八三	五〇	三
五五	九二	一五	二六	四	五三	七
七	八七	一	九	二四	二	四
四九	五八	二	九	四七	三三	四
六	一八	一	四	二七	二四	三
四七	九七	六	九	一三	四	八
二四	七	八	六	七四	五	四
三	八八	六	三	二四	二六	二
二四	七三	一	一	元	二七	二
四	五九	九	六	二四	四	七
五	六	二	八	四九	八三	一八
五	〇七	八	五	二七	二九	五
二四	六二	四	三	三	六四	五
二	六六	六	一〇八	七	元	四
六四	九七	二	四	一八	二六	五
八	九	一	三〇	三	五	七
八七三	一六八	一七六	九六	七四五	一〇一〇	二一五
二、三〇	三、八九	〇、四一	二、二	一、七	二、三	〇、〇

備考 朝鮮臺灣等ノモノハ本表ニ記入セス。

第七節 六週間現役兵力軍隊教育ニ則リ國民教育ニ應用セントスル事項

以下述フル所ハ六週間現役兵ノ日誌中ヨリ拔萃セシモノナリ。

一 片布教育。  
軍隊ノ被服ニハ凡テ片布ト稱シ隊號姓名ヲ記入セル白布ヲ附ス、片布ノ大サ、位置、形狀、數字ノ記入等ハ全聯隊凡テ齊一ナリ余ハ之ヲ見テ直チニ兒童カ日々携

行スル風呂敷ノ一端ニ應用セント思ヘリ而シテ之カ實施ニ當リテハ兒童ノ獨立心養成ノ目的ヲ以テ左ノ順序ニヨリ兒童自身ヲシテ行ハシメントス。

- 1 片布ノ目的及効用。
- 2 針ノ運進法。
- 3 片布ノ位置及姓名ノ記入。

二 被服ノ整頓教育。  
軍隊ニ於ケル外形ノ美ハ世人或ハ形式的ニシテ何等ノ價值ナシト稱スルモノ在ルヲ見ル余亦嘗テ斯ク思ヒタル一人ナリキ然ルニ今日入營ニ際シ眞ニ其誤レルヲ發見セリ夫レ物品ノ整頓ヲ嚴格ニ行フハ外形ヨリスル精神修養ノ唯一ノ手段ナリ而シテ不動ノ姿勢ニ於テ軍人精神内ニ充ツルトキハ外客自ラ嚴正ナリト稱スルモ亦同一義ナリ特ニ不動ノ姿勢ニ於テ軍人精神ノ充實ハ直チニ其眼光ニ溢ル、モノナリ、宜ナル哉眼ハ精神ノ窓ナリト。  
今軍隊ノ窓ノ開閉ヲ見ルニ幾百ノ窓凡テ是レ一糸亂ル、コトナク全ク同一ニ整然トシテ開閉セラル余等常ニ軍隊教育者ヨリ訓誨セラル曰ク夫レ一校ノ校

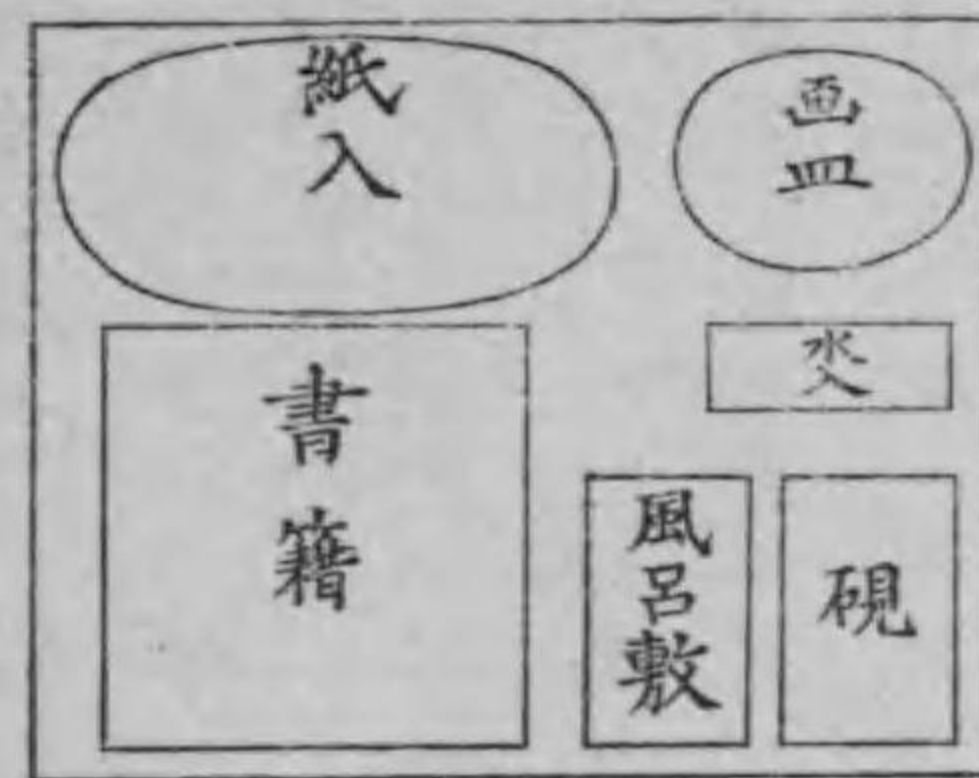
第七節 六週間現役兵力軍隊教育ニ則リ國民教育ニ應用セントスル事項

風ヲ知ラント欲スレハ須ク窓ヲ見ヨ若シ夫レ一室ノ訓練ヲ見ント欲スレハ先ツ生徒ノ机中ヨリ始メヨト。  
 兒童ノ机中ヲ左圖ノ如ク定メテ勵行セハ外形ヨリ行フ精神教育ノ補助トナラシ。

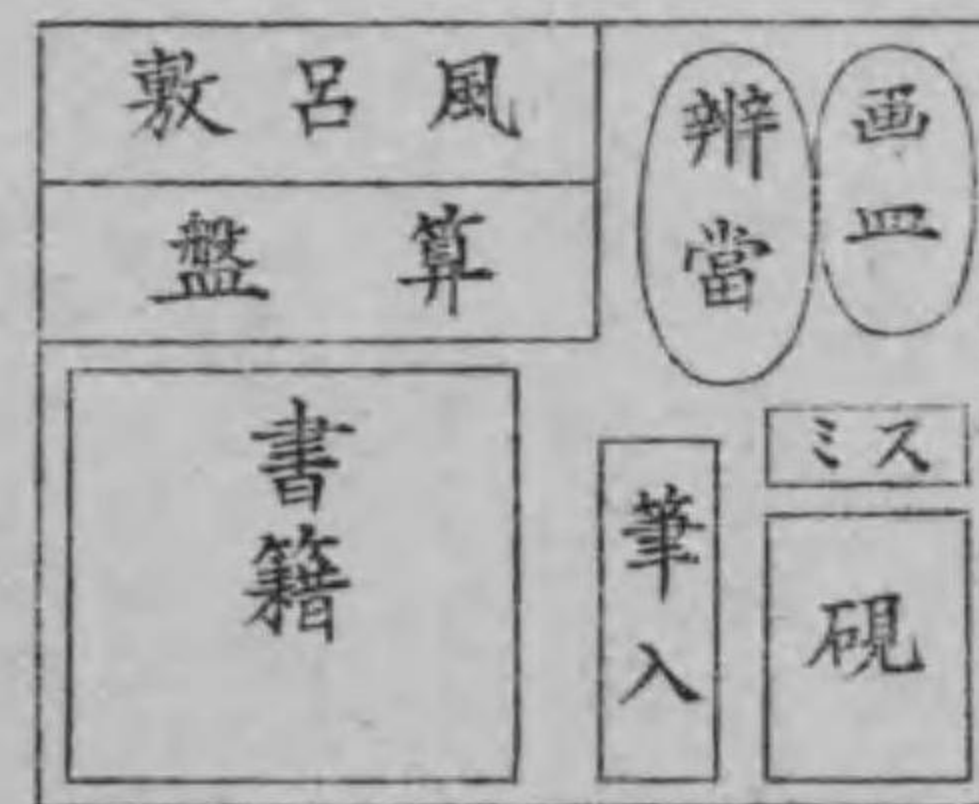
三 食堂教育。

嚴父タル中隊長、母タル班長ハ兵卒ト食事ヲ共ニシ食事法及禮儀等ヲ綿密ニ教

1 圖



2 圖



育セリ而シテ之ヲ學校ニ於ケル生徒ト擔任教師トノ會食ニ比スルニ和氣藹々トシテ眞ノ家庭ノ如シ。  
 教師ノ多クハ生徒ト會食スルモ何等ノ談話ヲ交ユルコトナク且ツハ右ヲ眺メ左ヲ睨ミツ、食事ヲ共ニスル無嗜味ニシテ形式的ナル方法ニ比シ實ニ言フヘカラサル快感ヲ覺ユ。  
 食事中上官ヨリ常ニ受ケタル訓示ノ内、食事ニ關スルモノヲ參考ノ爲メ列舉スレハ。

- 1 面白ク無邪氣ニセヨ然レトモ他人ノ感情ヲ害シ若クハ鄙陋ニ涉ル言行ヲ慎ムヘシ。
- 2 食事ハ上官(學校ニアリテハ教師)箸ヲ採リタル後ニ、始メ食堂ヲ出ツルトキモ亦前項ニ準ス。
- 3 食事開始前必ス手ヲ洗ヒ食堂ニ向ヘハ先ツ恭シク頭ヲ下ケ感謝ノ意ヲ表ハスヘシ(家庭ニ在リテ戴キマスト云フカ如シ)。
- 4 箸ハ中央ヨリ上部ヲ持チ食事中ハ菜移リヲナスヘカラス。

5 飯粒ヲ散亂シ又ハ机上ヲ不潔ニナスハ共ニ不可ナリ而シテ殘飯ヲ生スルハ身體ノ不健康ヲ表ハスモノナレハ特ニ注意シ已ムヲ得サレハ豫メ他人ニ分配スヘシ。

6 殘飯ヲ生シタルモノハ殘飯箱ニ入ルヘシ是レカ爲メ附近ヲ不潔ナラシムヘカラス。

7 探リ食 茶碗蒸ノ平菜ノ下ノ方ニマダ何ゾアルカト探リ見ルコト。

8 睨ミ食 物ヲ食ヒナカラ碗ノ上ヨリアチコチヲ見廻ハスコト。

9 箸鈍リ 何レノ菜ヲ食センカト箸ヲ持チテ見廻ハルコト。

10 又盛リ 箸ニテ飯ヲ碗ノ中ニオシツケテ食スルコト。

四 長上ニ對スル心得。

軍隊ノ如ク階級制度ヲ重ニスル所ニアリテ敬禮ノ嚴格ナルハ當然ノ事ナリト雖モ其敬禮タルヤ眞ノ誠心ヨリ上官ニ對スル服從ヲ表ハシ而シテ之ヲ外形ノ敬禮ニ及ホスハ誠ニ美ハシキコトナリ今ヤ社會ハ物質的文明ト共ニ秩序亂レ禮儀將ニ拂ハントシ甚シキニ至リテハ倫理道德ヲ説ク各種學校ヨリ同盟休校

ノ現出少カラサルニ至ル茲ニ於テカ我々教育者ハ相互ノ敬禮ヲ嚴格ニ勵行スルト共ニ自ラモ禮儀ヲ正クシ且ツハ兒童ノ敬禮ヲ監督セサルヘカラス六尺離レテ師ノ蔭ヲ踏マス「トハ今ヤ之ヲ見ル能ハサル亦嘆スヘキ哉。生徒ニ應用セントスル敬禮法ヲ擧クレハ。

1 教師ガ生徒ニ對シ物ヲ言フトキニハ如何ナル場合ト雖モ姿勢ヲ正シクスルコト。

2 生徒ノ整列セルトキ教師來ラハ級長ノ號令ヲ以テ敬禮ヲ行フコト。

3 生徒ノ歸校時ハ必ス之ヲ正門マテ見送り生徒ヨリ敬禮ヲ受クルコト。

4 室内ニ於ケル敬禮ヲ勵行ス。

5 教師ノ校長及古參者ニ對スル敬禮モ亦前述ニ準ス。

五 公德販賣。

或ハ電車ノ只乘リヲ考ヘ或ハ公園ノ花ヲ折リ或ハオデン、スシ屋テ食逃ケヲ遣ラントスル社會青年ノ思想ヲ改善セントスル目的ヲ以テ各隊ハ公德販賣ト稱スルモノヲ實行シツ、アリ酒保ノ隅角ニ硝子戸ヲ嵌メテ棚ヲ作り紙鉛筆、狀袋

筆墨ノ文具、煙草等ノ十數種ノ日用品ヲ並ヘ棚ノ上ニハ「公德販賣」ト横ニ大書ス。午後六時頃ヨリ兵卒ハ勝手ニ戸ヲ開ケテ各自ニ一二個ツ、ノ卷煙草又ハ日用品等ヲ取出シ下方ニアル抽斗ニ金ヲ投入シテ歸ル。此成績ハ未タ十分ナラス而シテ一ケ月中數回ノ不足ヲ見ルト云フ。

六 洗濯教育。

夏期適當ナル時期ヲ撰ヒ附近ノ小流ニ於テ生徒ニ洗濯ヲ教育スルハ獨立自營ノ精神ヲ養成スルト衛生思想ヲ發達セシムルトニ効果大ナルヘシ。

教師カ學校ニ於テ兒童ニ洗濯ヲ勵行シ得ヘキ物件ヲ舉クレハ。

- 1 風呂敷特ニ辨當風呂敷。
  - 2 手拭、足袋。
  - 3 袖口等ノ局部洗濯。
- 以下軍隊ニ於ケル洗濯ノ要領ヲ述ヘテ參考ノ資トナサントス。
- 1 襦袢(シャツ)袴下(ズボン)シタ。
  - イ 裏返シニシタルモノヲ水ニ浸シ十分濡レルヲ俟チ之ヲ引キ上ケ石鹼ヲ

ヌリ毛並ニ刷毛(又ハタワシ)ヲ使用スヘシ石鹼ハ強ク地質ニ押シツクルコトナク輕ク塗布スルニアラサレハ石鹼ヲ浪費スルニ至ル。

口 特ニ洗濯ヲ要スル部分ハ各縫目及襦袢ノ腋下、襟、袖口、袴下ノ四ツ及裾口トス是等ノ部分ニハ他ニ比シ多量ニ石鹼ヲ塗ルヘシ。

ハ 裏面ノ洗濯ヲ終レルトキハ之ヲ再ヒ水ニ入ル、コトナク表裏一返シテ直チニ洗濯スヘシ即チ石鹼ハ甚タシク汚損シタル襟、袖口、腋下等ノ外再ヒ塗ルヲ要セス是レ裏面ニ塗布スル石鹼ハ表面ニ滲透シテ表面洗濯ノ際尙ホ除埃ノ効ヲナセハナリ。

ニ 表裏兩面ノ洗濯ヲ終ルニ至レハ初メテ再ヒ水ニ浸シ石鹼ト共ニ遊離セル垢ヲ洗ヒ流スヘシ斯シテ後襟、袖口等最モ汚損スル場所ヲ檢シ汚ノ十分除去セラレサルトキハ其部分ニノミ再ヒ石鹼ヲ僅カニ塗布シテ洗濯スヘシ

2 局部洗濯。  
屢々洗濯ヲ行フハ被服ノ保存上不可ナリ是レカ爲メ特ニ局部洗濯ヲ勵行セサルヘカラス、局部洗濯ヲ要スル主要ナル部分ハ袖口、襟、襦袢ノ背、肩、袴下ノ股

部等トス。

洗濯ニ使用シタル石鹼ハ必ス水氣ヲ紙等ニテ拭ヒ去リ乾スヘシ然ルトキハ石鹼ハ硬化シテ容易ニ減少スルコトナク節儉ノ術ヲ全ウシ得ヘシ。

3 洗濯實施上ノ注意。

イ 石鹼ノ附着ハ多ク用ユルヲ要セス唯タ薄ク幾回モ行フヲ可トス。

ロ 刷毛或ハタワシノ使用ハ強ク力ヲ用ユヘカラス抑々垢ハ刷毛ニヨリテ除去セラルヘキモノニアラスシテ唯タ石鹼ニテ誘發セラレタルトキ刷毛ニヨリ洗ヒ流サル、モノナリ。

ハ 搾リ方強ケレハ地質ヲ弱クスルノ害アリ特ニ一端ヲ釘ニ掛ケテ搾ルカ如キハ甚タ宜シカラス。

七 大活音發唱ノ教育。

「突込メ」ノ號令ニテ吶喊シ猛烈果敢ニ敵ニ向ヒテ突入格闘スル軍人ニ在リテハ特ニ必要ナル教育ナリ然レトモ兒童ノ發音ノ如ク不元氣ナル音調ト不明瞭ナル語尾トハ國民教育上改善スヘキ必要ヲ認ム、如何ナル場合ニアリテモ「突込メ」

ノ號令ニテ大喊聲ヲ發シテ志氣ヲ鼓舞スルカ如キ或ハ握リタル石ヲ地上ニ投シテ音調ノ要領ヲ教育スルカ如キ軍隊教育ハ確カニ範トナスニ足ル、兒童教育上左ノ如キ場合ニ喊聲ヲ發セシムル如クナサハ兒童ノ志氣ヲ鼓舞スルヲ得ヘシ。

1 體操ノ前後或ハ休憩中時々行フ。

2 勝敗ヲ争ヒタル遊戯ノ前後ニ兩者共ニ行フ。

3 遊戯中駈歩ヲ以テ一地ニ集合セルトキ又ハ突撃セルトキニ行フ。

4 防者トシテ兒童ヲ一地ヨリ突出セシムルトキニ行フ。

5 遊戯ニ於テ兩軍進撃セルトキニ行フ。

6 遠足運動等ニ於テ山頂ニ登達セルトキ。

八 徒手體操ノ隊形及實施。

小學校ニ於ケル體操ノ隊形ハ常ニ其排列ヲ一定シ或ハ徒手體操ノ隊形ニ集マレ「先週ト同一隊形ニ集マレ」云々ト稱シ何等ノ號令ヲ用ユルコトナク徒ラニ十數分ヲ消費スルノミナラス實施中常ニ同一隊形ニテ同一方向ニ排列シテ願ミ

第七節 六週間現役兵カ軍隊教育ニ關リ國民教育ニ應用セントスル事項

サルカ如キハ直チニ改善セサルヘカラス例ヘバ。

兩手間隔距離、四歩二列横隊ニ集マレ。

半バ右向ケ右。

上衣ヲ脱キ疊ミテ一步前ニ置ケ。

此體操模範ヲ示シテ此時行ハントスル體操ノ目的効益ヲ指示ス。

各個ニ始メ。

數運動ヲ行ヘハ方向ヲ變換スルカ(例ヘハ廻レ右等)又ハ位置ヲ變換シテ再ヒ實施ス。

### 九 行軍ト遠足運動。

小學校ニ於ケル遠足運動ハ地理的觀念ヲ與ヘントスルコトニノミ熱注スルカタメ往々遊興見物的ニ流レ不規律ノ點少カラス若シ夫レ一度軍隊行軍ノ要領ニ準シテ之ヲ行ハンカ獨リ落伍者ヲ生セサルノミナラス規律ノ養成上頗ル有効ナラン。

#### 1 出發前日與フル注意。

イ 起床及登校時刻ヲ嚴格ニ指示シ特ニ登校時刻ヲ監督シ無益ノ労働ヲ制限スルコト。

ロ 食事ヲ十分ナラシメ兩便ヲ忘レサラシムルコト。

ハ 草履又ハ鞋及股引ノ着用法ヲ教ユルコト。

ニ 携行品ヲ規正シ必要以外ノ飲食物及金錢ノ所持ヲ嚴禁ス。

ホ 附添人ヲ附スルハ獨立心ノ養成ニ有害ナルヲ以テ嚴禁スルコト。

#### 2 遠足運動中ノ注意。

イ 携行品ノ携行方法ヲ監督ス。

ロ 列伍ノ疎開ヲ禁シ速度ニ注意セシム。

ハ 列中ヲ離ル、トキノ注意ヲ嚴守セシム。

ニ 兩側ヲ眺メツ、行進スルハ撞着ノ原因ニシテ且ツ疲勞スルコト大ナルヲ以テ嚴禁ス。

#### 3 休憩中ノ注意。

イ 休憩時刻場所ニ注意ス。

- 口 大小便服裝特ニ足部ノ改装ヲ實行セシム。
- ハ 足ノ検査ヲ勵行ス。
- 4 實○施○上○ノ○注○意○

十

- イ 學校醫ヲ隨行セシムルコト。
- ロ 教師ハ藥品ヲ携行シ簡單ナル治療法ヲ實施シ得ルコト。
- ハ 地理的觀念ヲ授クルノミヲ以テ目的トセス精神修養ノ補助トナスコト。

火○災○豫○防○教○育○

軍隊内務書ニ曰ク凡ソ火災ハ人畜ニ危害ヲ及ホシ國帑ヲ糜シ軍隊教育上及衛生ヲ害スル等其弊收舉ニ違アラス而シテ多クハ疎漏ヨリ生スルモノトス上下一致全幅ノ注意ヲ以テ其危害ヲ未然ニ豫防セサルヘカラスト火災豫防ノ必要ナル豈獨リ軍隊ノミナランヤ。

最近燒失戸數ヲ列舉スレハ

明治二十五年 四五四一九	明治三十年 三五七〇八	明治三十五年 三六二四五	明治三十八年 三一八八〇	明治三十九年 三六六九九	明治四十年 四二九一四	明治四十一年 三七八三〇
-----------------	----------------	-----------------	-----------------	-----------------	----------------	-----------------

明治四十四年度ノ火災度數ハ一萬二千回ニシテ此損害高約二億萬圓ニ達セリ若シ家屋新造ノ費用ヲ合算スルトキハ四五億ノ巨額ニ達スルナラン明治廿七八年戰役ノ軍事費約二億萬圓ニ比シ火災ノ恐ルヘキヲ知ルナリ。

- 1 市町村民及各兒童ヲシテ學校内御眞影ノ位置ヲ知ラシムルト共ニ天災地變ニ應スル臨機ノ處置ヲ教育スルコト。
- 我ガ聯隊軍旗ノ步哨ノ特別守則ニ命ヲ捨テ、モ軍旗ヲ守リ若シ火災アルトキハ直ニ飛ヒ込ミ軍旗御眞影勅諭ヲ持チ出ス若シ間ニ合ハサルトキハ窓ヨリ出スト。
- 2 各受持教師ハ自己教室ノ火元取締ニ就テハ全責任ヲ有ス。
- 3 日直教師(宿直教師)ノ起居ハ軍隊ノ週番(日直勤務)ニ準スルコト。
- 4 小使ニ火元取締ノ教育ヲ實施セシム。
- 5 兒童ニ對シ火災ノ恐ルヘキ所以ト豫防上ノ注意ヲ與フ。
- 6 其他細部ノ諸注意ヲ舉クレハ。

第七節 六週間現役兵カ軍隊教育ニ則リ國民教育ニ應用セントスル事項

火鉢「マツチ」ノ注意。  
各室ニ責任者ヲ定ム。  
裸燈火ヲ禁ス。

煙突ノ掃除。  
不完全ナル火取ヲ禁ス  
煙草ノ吸殻ニ注意ス。

十一 「トラホーム」豫防教育。

「トラホーム」ハ古キ昔ヨリ存在シ特ニ埃及アラビアハ其本家ナリ歐洲ニ於テハ約百年前那王第一世皇帝カ埃及ヲ征伐セルトキ其部下兵士之ニ傳染シ之ヲ埃及土產トシテ持チ歸リ遂ニ全歐洲ニ傳播スルニ至レリト云フ、我國ニ於テハ隨分昔ヨリ本病ヲ有セリト雖モ今日ノ如ク甚シカラサリキ今ヤ全國此病氣ヲ見サルナク一ノ民病トシテ數ヘラル、ニ至リシハ國家ノ爲メ最モ嘆スヘキコトナリ。

明治四十三年度ノ徵兵四十三萬ニ對シ九萬六千八百ノ同患者即チ約百分ノ十二ニ達セリ尙ホ之ヲ細別スレハ左表ノ如シ。

府縣別徵兵「トラホーム」患者表

道縣	重症	中等症	輕症	計	千分比
----	----	-----	----	---	-----

道縣	重症	中等症	輕症	計	千分比
北海道	一九六	七〇一	一五三八	三四三五	一四八
東京	一四九	五三五	三二一五	三八九九	一七四
京都	一〇〇	二九六	一五三一	二〇二七	二一九
大阪	一〇六	六九六	三五〇三	四三〇五	二八八
神奈川	一〇五	二九〇	八四〇	一三三五	一三一
兵庫	一一一	五六八	二五三一	三二一〇	一九七
長崎	一三五	三七四	一六五九	二一六八	二六〇
新潟	一二三	八〇七	二二九九	三三二九	二一〇
埼玉	七三	三五二	二〇四二	二四六七	二〇九
群馬	五四	三六七	一八五二	二二七三	二七五
千葉	三九	六九五	一八九七	二六三一	二二七
茨城	四五	五二四	二七八八	三三五七	三〇二
栃木	八七	八四二	一〇〇八	一九三七	二二三
奈良	五九	一九八	九四七	一二〇四	二四八
三重	四七	二三八	一五七一	一八五六	二一一
愛知	一〇九	八三六	三二六七	四二一二	二七一
静岡	二〇	六〇三	一九四九	二五七二	二一三
山梨	七六	三三六	七〇五	一一一七	二〇四

第七節 六週間現役兵カ軍隊教育ニ則リ國民教育ニ應用セントスル事項



德島	香川	愛媛	高知	福岡	大分	佐賀	熊本	宮崎	鹿兒	沖繩	朝鮮	臺灣	樺太	關東	清國	計
五七	一三四	一六一	一二六	一八六	六〇	七六	二〇三	一七二	一八一	三一	一〇	二	九	四	二	四四一五
五六三	四四〇	二九九	二二六	一九九	二四四	六二四	五六三	四五三	五四二	六三	五四	三七	一九	三八	一	二一〇九一
八一九	一一七一	七七四	四七一	三七〇	一〇五四	一四〇五	二五〇八	七五七	一三九〇	三二七	二二七	一三九	二九	四一	二	七一三九九
一四三九	一七四五	一二三四	七二三	五五四	一三五八	二一〇五	三二七三	一三八二	二一一三	四二一	二九一	一七八	五七	八三	五	九六八八五
二五一	二七五	一五四	一三二	三六二	二一五	三四一	三三	三二一	一九八	九六	一六三	二六四	一七九	一一〇	一一二	二二三

第七節 六週間現役兵カ軍隊教育ニ則リ國民教育ニ應用セントスル事項

滋賀	岐阜	長野	宮城	福島	岩手	青森	山形	秋田	福井	石川	富山	島根	岡山	廣島	山口	和歌山
七六	三七	五二	二四二	二〇七	八八	一三八	一〇二	五二	五四	五六	五三	三二	一三	五七	一一八	三五
一五五	三〇七	二八八	六二九	五六七	四八一	六一五	五八一	三六四	三六三	一四五	一六四	一七三	二〇〇	五九四	五三四	一一四
一二七六	二〇三三	九八七	一六四〇	二六三五	一四四九	一三三九	一八四六	一六三八	五二六	四四四	二一五	二九二	一〇二三	一九九四	一〇七〇	二九一
一五〇七	二三七七	一三二九	二五一	三〇四九	二〇一八	二〇九二	二五二九	二〇五四	九四三	六四五	四三二	四九七	一二三六	二六四五	一七二二	四六〇
二四五	二七四	一〇六	二八九	二九八	二九四	三四一	三一四	二八三	一八六	一〇九	六九	一四五	二二六	二八五	一三四	七九

軍隊内務書ニ準シ兒童ニ應用シ得ヘキ豫防法ヲ示サハ。

1 患者ニ對スル豫防法。

イ 家庭トノ連繫ヲ密ニシ其恐ルヘキ所以ヲ示ス。

ロ 患者アル家庭ニハ洗面器手拭等ノ取扱ヲ指示ス。

ハ 同一机ニハ患者ノミヲ排列ス。

ニ 市町村費ヲ以テ治療費ヲ補助シ得ハ最モ有効アリ。

ホ 學校ニ於テ治療シ得ル如クナサシム。

2 一般豫防法。

イ 各人ヲシテ手拭ヲ携行セシム、理髮屋ニ至ルトキハ殊ニ然リ。

ロ 共同物品即チ水挿、掃除器等ノ取扱ニ規定ヲ設ク。

ハ 遊戯ノ時患者ノ手ヲ握ラサル如ク排列ス。

ニ 不潔ノ水水溜等ニテ水泳ヲ禁ス。

ホ 女生徒相互ニ行フ髮ノ結ヒ方ニ注意セシム。

ヘ 物品ノ貸借ヲ禁ス。

ト 健康診断ノ勵行。

十二 給料ノ使用法。

十日毎ニ支給スル給料日ニハ中隊長自ラ立チ會ヒ質素儉約ヲ説キ國家經濟ノ狀況ヲ論シ又ハ父兄一般ノ生活狀態ヲ反省セシムル等百方手段ヲ盡シテ其亂費ヲ戒ム、加之各班長ハ其使用區分ヲ計畫セシメテ之ヲ點檢シ特ニ次回給料日マテニ要スル諸日用品ヲ購求セシメ其殘金ヲ以テ已ムヲ得サルモノ、ミニ飲食費ト爲サシムルカ如キ其教育ノ周到ナル實ニ感服ノ至リナリ。

余ハ小學校ニ於テ學用品販賣ヲ實行シ兒童ヲシテ雜記帳、筆墨等ノ入用品ヲ一ヶ月毎ニ取調ヘテ之ヲ父兄ニ通知シ其承諾ヲ得タル後、之ヲ生徒ニ販賣シ以テ亂費ヲ監督セントス而シテ此方法ヲ實施セハ左ノ如キ利アリ。

1 日用品ノ亂用ヲ豫防ス。

2 父兄ヲ欺キテ金錢ヲ貰ヒ其大部分ヲ飲食費ニ使用スル弊害ヲ除去ス。

3 安價確實ナル日用品ヲ生徒ニ使用セシム。

## 十三 擔任教師ト中隊幹部トノ比較。

中隊ハ編成教育ノ單位ニシテ下士以下ノ教育訓練ヲ成就シ德育ヲ併進セシムル所トス、中隊長ハ實ニ中隊ノ指揮官ニシテ又師父タリ中隊附下士ハ其慈母タリ助教タルヘキモノトス。

中隊長ハ中隊家庭ノ嚴父ニシテ部下ヲシテ軍人ニ賜ハリタル勅諭ノ御趣意ヲ能ク服膺シ言行必ス之ヲ遵奉セシメ其他諸種ノ手段ヲ盡クシ精神教育ニ從事シ心性ヲ改善シ向上シテ在營間忠良ノ軍人トナリ歸郷ノ上ハ淳朴ノ國民タル資性ヲ養ハシムルヲ要スト。

又曰ク中隊長ハ部下兵卒ノ身分職業ヲ識別シ其行狀才能ヲ熟知シ各人ノ性質ニ應シテ懇切ニ誘導啓發シ賞罰ヲ正クシ部下ヲシテ喜ヒテ其職務ニ從ハシムルコトヲ勉ムヘシト。

是レ受持教師ト兒童トノ關係ニアラスシテ何ソヤ。

中隊長一度刀ヲ抜イテ命令ヲ發スルヤ中隊長ヲ核心トセル志氣結合ノ基礎ヲ發揮シテ水火且ツ辭スル所ナク死生ノ間ニ從容タリ然レトモ家庭ノ父トシテ

中隊ニ入ルヤ融々樂々ノ間恰モ愛兒ニ接スルカ如シ。

中隊附下士ハ中隊家庭ノ慈母ナリト眞ナル哉兵卒ノ金錢ノ使ヒ方ヲ監督シ外出ノ服裝ヲ検査シ支給品修理交換返納一切ノ事ヲ取扱ヒ班内舍室ノ保存掃除及諸物品ノ裝置整頓ニ注意シ命令ノ大要ヲ筆記シテ其傳達ト履行トヲ監督シ個人衛生ヲ確實ニ履行セシメ兵卒ノ德義トシテ品行ヲ慎ムノ風ヲ養成シ勅諭ノ御趣意ヲ心肝ニ銘シ言行必ス之ヲ遵奉セシムル等其職務ノ多端ナル枚擧ニ違アラサルナリ。

嗚呼是レ擔任教師ト兒童トノ關係ニアラスシテ何ソヤ斯クノ如クシテ兵卒カ中隊家庭ノ嗜味ニ感シ中隊ヲ呼フニ内ノ中隊内務班ヲ呼フニ内ノ内務班トナスニ至ラン。

## 十四 活模範ノ應用。

上官ハ隊中ニ在ルト否トヲ問ハス其言行總テ部下ノ儀表タラサルヘカラスト又曰ク百ノ訓誨ハ一ノ模範ニ如カスト特ニ服従心ヲ養成スル最良ナル方法トシテ上官先ツ自ラ諸法則ヲ遵奉シ禮儀ヲ正クシ服従ノ道ヲ守リ以テ模範ヲ垂

ル、ニアルコトヲ忘ルヘカラスト。  
軍隊教育ノ進歩ハ實ニ此活模範ニヨリ指導セラル、ノミ勇猛ナル敵陣地アリ  
士卒進マス上官先ツ自ラ率先突入スレハ部下之ニ從フ是レ軍隊教育ノ活模範  
ニシテ吾人ノ範トセサルヘカラサル所ナリ、形態上ニ關スル活模範ヲ列舉シテ  
修養ノ質トナサントス。

1 學○校○ニ○在○リ○テ○行○フ○活○模○範○。

イ 姿○勢○態○度○、服○裝○禮○儀○、言○語○。

ロ 教○師○ノ○室○ノ○整○頓○掃○除○。

ハ 體 操。

ニ 遲○刻○早○引○キ○ヲ○行○ハ○サ○ル○コ○ト○。

ホ 遊○戲○又○ハ○休○憩○時○ハ○兒○童○ト○共○ニ○運○動○ス○

2 家○庭○ニ○於○ケ○ル○活○模○範○。

イ 家○業○ヲ○怠○ラ○サ○ル○コ○ト○。

ロ 讀○書○ノ○姿○勢○机○中○ノ○整○頓○。

ハ 夜○學○ノ○勵○行○。

ニ 時○間○ノ○確○守○。

ホ 祖○先○崇○拜○。

### 十五 精○神○教○育○ノ○手○段○。

軍隊内務書ノ綱領ニ曰ク、蓋シ精神教育ハ唯精神ヲ以テ教育スルヲ得ヘシト故  
ニ上官ハ演習、勤務等ノ際ハ勿論坐臥寢食ニ於テモ細心注意シ部下ヲシテ其鍛  
鍊ニ餘念ナカラシム是レカ爲メ採用スル教育手段ハ偶發事項ヲ基礎トスル消  
極的手段ヲ捨テ常ニ軍人勅諭ノ御趣意ヲ銘肝セシメ我ガ國體ノ萬國ニ冠絶セ  
ル所以ト聖朝御歴代ノ御高德トヲ講話シ兼テ古今忠勇義烈ノ事蹟ヲ述ヘ又諸  
法則、典範類ヲ説明シ以テ個人道德ニ及ホセリ、教育手段ノ一例ヲ舉クレハ。

1 合○同○訓○話 中隊長又ハ中隊附將校ハ中隊全員ヲ集メテ講堂又ハ野外ニテ  
行フ。

2 級○別○訓○話 年次兵又ハ階級別トナシテ行フ。

3 班○別○訓○話 内務班毎ニ行フモノニシテ其實施ハ中隊幹部特ニ直屬内務班

長行フ。

4 個人訓話 軍隊教育ニ於テ最モ行ハル、ハ個人訓話ニ在リ即チ中隊長ノ職務ニ部下兵卒ノ身分職業ヲ識別シ其行狀才能ヲ熟知シ各人ノ性質ニシテ懇切ニ誘導啓發シ賞罰ヲ正クシ部下ヲシテ淳朴ノ國民タル資性ヲ養ハシムヘシ。

又班長ノ職責ニ關シ示シテ曰ク能ク班内兵卒ノ性質行狀技能經歷ヲ熟知シ特ニ金錢ノ遣ヒ方外出先ノ舉動ニ注意スヘシ云々。

5 精神訓話 兵卒ノ服裝。

講堂ニ於テ行フ合同訓話ハ常ニ最上服裝ニ改ムルヲ常トセリ尙ホ時トシテハ帶劍セル服裝ヲ命セラル、コト少ナシトセス近クハ先帝陛下御不例ニカカラセ給フヤ毎朝演習前最上服裝ニ改メ中隊長ノ號令ニテ伊勢ノ太廟ニ向ヒ捧銃御平癒ヲ祈願シ奉レルカ如キ其一例ナリ。

6 精神訓話 姿勢。

講堂ニ在リテハ腰掛ヲ用ユルコトアリト雖モ其他ハ常ニ起立セルマ、訓話

セラル而シテ訓話中苟クモ上皇室ニ對シ奉レルトキハ一同直チニ不動ノ姿勢ニ移リテ謹聽スルヲ例トセリ。

### 第八節 軍隊教育ト國民教育トノ關係

鐵血宰相「ビスマルク」ガ獨逸帝國隆昌ノ秘訣ヲ斷言シテ曰ク。

「予若シ國民教育ノ基礎ヲ發見セサリシナラハ予ガ事業ハ何等ノ効果ヲモ來ササリシナラン」ト。

富力ニ先チ兵力ニ先チテ早ク國民教育ノ方針ヲ定メ得タル獨逸帝國ノ今日ノ隆運ハ豈偶然ナランヤ。

今試ミニ壯丁ノ無學者ノ百分比例ヲ舉クレバ。

國名	百分比
獨逸	〇、〇二
露西亞	六七、二〇
英國	一、〇〇

第八節 軍隊教育ト國民教育トノ關係

伊太利……………三〇六〇  
 日本……………四二八

本邦ノ無學者壯丁別ヲ舉クレハ

種別	明治三十七年	明治三十七年	明治三十八年	明治三十九年	明治四十年	明治四十二年	明治四十二年	明治四十三年
壯丁總員	三四五、九二六	四九、三六五	四二、三三七	三九、三九三	四四、四四三	四九、二六六	四三、七五五	四三、七六五
無學者	五、八一四	五、一〇一	四、八八六	三、五六四	二、八九〇	二、五二七	三、三五二	一、八五二
百分比	一、五、八一四	一、一、一〇一	一、一、〇八六	八、三六四	六、二九〇	五、二七〇	七、三五二	四、三〇六

壯丁ノ學無者師管別一覽表(明治四十二年度)

種別	第一師管	第二師管	第三師管	第四師管	第五師管	第六師管	第七師管	第八師管	第九師管	第十師管	第十一師管	第十二師管	第十三師管	第十四師管	第十五師管	第十六師管	第十七師管	第十八師管	計
總壯丁	四八、五五六	二九、八〇〇	四四、四三六	三三、八七二	三〇、〇八八	四〇、五〇八	四〇、〇三三	三二、〇八一	三三、〇三三	五七、九二二	三三、〇三三	二九、七六六	三三、〇三三	三三、〇三三	三三、〇三三	三三、〇三三	三三、〇三三	三三、〇三三	三三、〇三三
無學者	二、〇一一	一、〇一一	一、〇一一	一、〇一一	一、〇一一	一、〇一一	一、〇一一	一、〇一一	一、〇一一	一、〇一一	一、〇一一	一、〇一一	一、〇一一	一、〇一一	一、〇一一	一、〇一一	一、〇一一	一、〇一一	一、〇一一
百分比	四、一四三	三、三八四	二、二七二	三、〇一七	三、三六四	二、四九三	三、一四六	三、一五七	一、七二七	二、九八二	三、〇三三	三、四二二	三、〇三三	三、〇三三	三、〇三三	三、〇三三	三、〇三三	三、〇三三	三、〇三三

露國參謀少將「エマル」キノ「フ」氏ノ「悲痛ナル日露戰爭ノ經驗」ト題シ日露戰爭ノ勝敗ノ原因ヲ列舉セル一節ニ曰ク。

「我兵ハ其勇氣ニ於テ世界ニ唯一ナル日本兵ニ比シ遜色ナシト雖モ其知識ハ大

ニ劣等ナリト云フヘシ日本兵ハ悉ク文字ヲ解シ新聞ヲ讀ミ能ク個人ノ權利ヲ了解スルト共ニ何故ニ戰鬥ヲ行フヤヲ知レリ、戰死シタル敵兵ノ背囊中ニ於テ吾人ハ常ニ郵書新聞紙或ハ整然タル日記帳ヲ見タルカ其下士ニ至リテハ右ノ外雜記帳、地圖、友軍及敵陣地ノ配置ヲ手記セル掌圖ヲ有セリ是ニ由リテ見レハ敵兵ハ周圍ノ事物ニ對シ自ラ判斷力ヲ有セシモノト言フヘシ。

然ルニ我兵ハ何ノ爲メニ何所ニ赴クヤヲ知ラス又周圍ノ事物ニ關シ一切知ル所ナク只タ命令ニ盲從スルノミ而シテ才幹アル將校ノ指揮ヲ受クレハ豪勇無壯ナリト雖モ若シ將校ニシテ負傷或ハ戰死センカ隊伍混亂シテ殆ント爲ス所ヲ知ラサルニ至レリ然ルニ日本軍ノ中隊ニ於テハ假令將校ヲ失フモ其行動ハ毫モ滯滞セス各兵能ク其部隊ノ任務ヲ知ルカ故ニ絶エス前進シ地形ヲ應用シテ射撃目標ヲ撰定シ又比隣部隊ト聯絡ヲ維持セリ約言セハ各兵ハ自覺的ニ其目的ノ遂行ニ勉メタリト。

近クハ六週間現役兵ノ身幹ヲ五尺二寸以上ト改メタルハ是レナルヘク多クノ國民教育者ヲシテ軍隊教育ノ梗概ヲ學ハシメ以テ國民ニ軍人精神ヲ鼓吹セン

カタメナリ。  
抑モ帝國臣民カ社會ノ一員トナリテ完全ナル活動ヲナシ得ルマテニ經過スヘキ教育ノ順路ハ。



ノ如クナラサルヘカラス。

然ルニ今翻テ家庭教育ノ状態ヲ見ルニ中流以上ハイサ知ラス一般社會ニアリテハ家庭教育ハ悉無ナリト稱スルモ敢テ過言ニアラサルヘシ是レ維新當時文質的文明ニノミ汲々タル結果ニヨリ生シタル自然ノ成リ行キニシテ其改善亦容易ナラサルナリ。

不完全ナル家庭ニ在リテ最モ不完全ナル家庭教育ヲ受ケタル多クノ兒童ハ數ヶ年間學校ニ在リテ道德教育及國民教育ノ基礎並ニ其生活ニ必須ナル普通ノ知識技能ヲ受クト雖モ一度學校ヲ出ツルヤ又モ不完全ナル家庭教育ニヨリテ昔日ノ木阿彌ニ化ス。

斯クノ如クニシテ入隊セル多クノ壯丁カ軍隊教育ニヨリテ鍛鍊セラレ忠君愛國ノ鑄型ニ注入セラル、モノナリ而シテ此教育ノ趣旨ハ在營二ヶ年間ハ勿論兵卒ノ第二ノ天性タラシメントスルニアリ。

日露ノ戰役ニ於テ近々數週間ノ教育ヲ受ケタル補充兵カ度々戰場ニ於テ武器ヲ以テ立テリ然レトモ三年間ノ教育ヲ受ケタル豫後備兵ニ比シ損色アリシヤ免レス。

吾人軍隊教育ノ經驗ヲ以テスレハ一ヶ月ノ時日ハ良ク武器ヲ手ニシテ戰フノ術ヲ教育スルニ足ル然レトモ戰鬪ノ勝敗ハ常ニ國民精神ノ充溢ニアルヲ如何ニセシテ而シテ此國民精神ノ養成ハ一ニ國民教育者ニマタサルヘカラス若シ夫レ國民精神ノ養成ハ國民全般特ニ國民教育者ノ責務トナシ軍隊教育者ヲシテ國民精神ヲ有セル壯丁ニ單ニ戰鬪ニ關スル技術ノ教育者タルニ止マラシムルヲ得ハ蓋シ吾人ノ理想ニ合スルモノナラン。

今ヤ日清、日露ノ戰役後世界ニ於ケル宗教々育ハ將ニ動搖ヲ來サントセリ佛國ノ如キハ。

千八百八十二年小學校ニ初メテ修身科ヲ置キシカ更ラニ千八百九十七年高等女學校ニ。

又千九百二年ニハ中學校ニ修身科ヲ置キテ從來ノ宗教々育ハ家庭ニ讓ルニ至レリ。

又英國ニ於テハ千九百六年小學校令ヲ發布シ以テ修身教育ヲ學校ニ於ケル重用ナルモノトナセリ以前ハ專ラ權利義務ノ思想ヲ注入セシカ今ヤ一轉シテ正義ノ觀念ヲ養成スルニ至レリ。

又乃木大將カ述ヘラレタル修養訓ノ一節ニ曰ク。

凡そ人は小學時代の教育が最も大切なるものであつてこれを予が幼少時代のことを省みても能くわかるのではあるがさて僅かに三年許りの間ではあるけれども實際に小供の成長して行く其有様を見て居ると教育の感化を受けるのは此時代に最も多いことを最も切實に感ずるのである、それと同時に假りに之を中學年齢以後の訓育教育の力に比較すれば教師が小學校の兒童に及ぼす其言語、動作、風采上の感化は善いこと悪いこと共に實に強いことを

見るのである。

世人は或は左程までに深くは及ばぬ様に思考して居るかは知らないが僅かな所の癖或は其人の特性は眞似をさせまひとしても而かも深く兒童に感化を與へることを屢々予は認めて居るのである是に由つて見ると小學校時代の兒童の教育に當られる教師諸氏の任務と云ふものは極めて大切なるものであると思考するのである。

また其結果は直ちに國家の盛衰隆替に關すとも云ふ可き教育は所謂小學時代の國民教育である、軍隊に召集せらるゝ兵卒にしても小學校だけで其教育を廢した者は其受けて居る所の感化は矢張り小學校時代の感化である、されば此小學校時代の感化は我軍隊の力を左右するものであると云ふことが出来るのである、此點より考へても小學校時代の教育と云ふものは最も大切であると思つて居る云々。

軍隊教育ト國民教育トハ實ニ密接ナル關係ヲ有シ其消長ハ直チニ一國ノ盛衰ニ影響ヲ與フルモノナリ。



一 國民教育者ノ軍隊教育者ニ對スル希望。

余ハ嘗テ某地師範學校内ニ行ハレタル教育講習會ニ參列シ會員百餘名ニ軍隊ニ對スル國民教育者ノ希望ヲ尋ネタルニ左ノ要旨ノ回答ヲ得タリ、其如何ハ讀者ノ判斷ニ委スノミ。

- 1 軍隊教育ヲ開放スルコト。
- 2 軍隊ノ儀式作業ニ學生ヲ參加セシメラレタキコト。
- 3 軍隊教育者ハ學校教育ヲ研究セラレタキコト。
- 4 軍隊ヨリ見タル壯丁ノ缺陷ハ學校教育ノ那邊ニ存スルカノ意見ヲ調査シテ教育者ニ示サレタキコト。
- 5 小學校ニ於ケル修身教科書ノ内容ヲ以テ軍紀、風紀ニ對スル精神教育涵養ノ基礎トナスコト。
- 6 小學校ノ體操科ニ於ケル兵式教練及地方團隊ニ於テ行フ新入營兵ノ豫習教育等ニ對シ適當ナル機會ニ於テ指導獎勵ノ方法ヲ講セラレタキコト。
- 7 各地市町村ノ小學校長ハ其學校出身ノ軍人ノ經歷、現狀ヲ詳知シ後進者ノ

指導誘掖ニ資シタキコト。

- 8 教育勅語ノ奉讀式ヲ軍隊ニ於テ舉行シ聖旨ノ貫徹ニ勉メラレタキコト。
- 9 小學校卒業後社會ヨリ受ケタル性行ニツキテ調査ノ結果ヲ通知セラレタキコト。
- 10 在郷軍人カ町村ニ於テ人格上他ノ模範トナル如ク常ニ素行ヲ修ムルハ勿論、進ミテ學校及社會教育上ニ相當ノ盡力アラレタキコト。
- 11 在郷軍人ノ點呼ノ際ニハ軍事上ノ知識經驗ニ乏シキ吾人國民教育者ニ見學ヲ許サレタキコト。

二 軍隊ニ於テ實施シ得ル國民教育者トノ連繫手段。

- 1 入營者ノ寫眞ヲ學校ニ送附セシメ學校ニアリテハ之ヲ保存セラレタキコト。
- 2 兵卒中賞罰ヲ受ケタルモノハ學校長ニ通報スルコト。
- 3 兵卒ノ在隊間ノ性癖素行等ヲ除隊後學校長ニ通報スルコト。
- 4 旅行、遠足、運動會等ニテ衛戍地ニ來ル學校教育者ニハ成ルヘク學校附近ノ

出身兵卒ニ接近セシメ要スレハ武技等ヲ見學セシムルコト。  
 5 行軍等ニ際シテハ附近ノ教育者ハナルヘク知己兵卒ニ面會スルコト又軍隊ニアリテハ狀況已ムヲ得サルノ外ハ適當ノ便宜ヲ與フルコト。  
 三 國民教育者ニ對スル軍隊教育者ノ希望。

- 1 入營前ノ初年兵ニ行フ豫習教育ニハ在郷軍人ト共同シテ行ハレタキコト。
- 2 生徒ノ軍隊見學ハ尙ホ一層實際的即チ兒童ノ精神修養ノ參考トナル如クセラレタキコト。
- 3 補習教育ノ方法ヲ講シラレタキコト。
- 4 徵兵検査ノ時ニハ學校長ノ立會ヲ勵行シ市町村内壯丁ノ規律態度ヲ學校教育ノ參考トセラレタキコト。
- 5 在郷軍人ノ點呼ニ際シ兒童ノ一部ヲ見學セシメ以テ必任義務兵ノ感念ヲ深カラシメタキコト。
- 6 戰病死者ニ對シ生徒ヲシテ一層尊敬心ヲ涵養セシメラレタキコト。
- 7 壯丁ノ入營スルトキ學校卒業後ノ經歷素行等ヲ最モ綿密ニ通知セラレタ

キコト。

### 第九節 新入營者ニ行フ豫習教育ニ就テ六週間現役兵ニ對スル希望

近時初年兵ノ入營前ニ軍隊教育ノ一部ヲ教育スルハ國民ト軍隊トノ連繫上誠ニ喜フヘキ現象ナリト雖モ其教育科目ニ就テ十分ナル研究ナキタメ遂ニ惡癖先入主トナリ却ツテ軍隊教育ニ妨害ヲ與ヘタル例少ナカラス余ハ此所ニ數年間初年兵ノ教育ニ從事セル經驗ニ鑑ミ二三ノ所見ヲ陳述セントス然レトモ元ヨリ二三衛戍地壯丁ノ取扱ヨリ生シタル經驗ノ所感ニシテ一般衛戍地ニ應用シ得サル所アルヤモ計リ難シ。

#### 一 教 練

各個教練體操等ヲ豫習教育ニ於テ行フハ本教育ノ妨害トナルコト多キヲ以テ宜敷ク之ヲ避クヘシ唯タ不動ノ姿勢ノ概念ヲ與ヘ之カ應用トシテ長上ニ對シ應對スルトキハ必ス端正ナル姿勢ヲ以テ行フヘキコトヲ教育セラレンコトヲ

第九節 新入營者ニ行フ豫習教育ニ就テ六週間現役兵ニ對スル希望

希望ス、股引、跳足ニテ、駆歩ヲ行ヒ敬禮ヲ實施スルハ時ニ或ハ教練ノ目的ヲ沒却スルニ至ルコトアリ。

二 學科ノ教育。

- 1 勅諭、讀法、戊申詔勅、教育勅語ノ摘講。
  - 2 國體ノ尊嚴及御歷朝高德ノ講話。
- 嘗テ初年兵ノ入隊當時戊申詔勅及孝明天皇祭ニ就テ質シタルニ之ヲ知ルモノ甚タ少ナキヲ實驗セリ。

	孝明天皇祭	戊申詔勅
知ルモノ	一五	知ルモノ
知らヌモノ	六六	知らサルモノ
		六五

又御歷朝ノ御名ヲ一人ニ就キ五歷朝ツ、書カシメタルニ左ノ結果ヲ見タリ。

人	員	正答セル御名ノ數
	八五、	一九四、

3 習字及普通學ノ修得。

無學者ノ統計ハ前既ニ述ヘタリ。

筆算殊ニ算用數字ヲ知ラサルモノ少ナカラサリシ。

4 衛生思想。

個人衛生、衆人衛生ヲ説キ尙ホ花柳病及ヒ「トラホーム」豫防法ニ就テ嚴重ナル監督ヲ勵行セラレタキコト。

人體生理ノ概略ヲ知ルハ體操教育上甚タ緊要ナルコト、ス然ルニ壯丁中之ヲ知ルモノ少ナキハ頗ル遺憾トスル所ナリ例ヘハ、

- イ 肋骨數ヲ知ルモノ少ナシ。
- ロ 筋肉ヲ一個ノ袋形ヨリ成ルモノト思ヒ居ルモノ多シ。
- ハ 肺臟、心臟ノ位置及ヒ員數ヲ知ルモノ少ナシ。
- ニ 常識上ノ教育。
- 5 嘗テ左ノ如キ結果ヲ實驗セリ。
- イ 父母ノ年齢ヲ知ラサルモノ百分ノ十三ニ達セリ。
- ロ 父母ノ死亡日ヲ知ラサルモノ百分ノ三十六ニ達セリ。

第九節 新入營者ニ行フ豫習教育ニ就テ六週間現役兵ニ對スル希望

- ハ 村長ノ名ヲ知ラサルモノ百分ノ三十二ニ達セリ。
  - ニ 在郷軍人分會長ノ名ヲ知ラサルモノ百分ノ十四ニ達セリ。
  - 6 古今忠勇義烈ノ事蹟ヲ教育スルコト。
  - 特ニ村内ノ爲メニ大ニ盡力セル人及戰病死者ノ事蹟ヲ講話シ忠君愛國ノ精神ヲ養成スヘシ。
  - 7 在郷軍人ノ簡閱點呼ニ參列セシムルコト。
  - 8 擊劍及角力ノ勵行。
  - 9 補習教育トシテ夜學ノ勵行。
- 今ヤ青年夜學會到ル所ニ其設立ヲ見ルト雖モ壯丁中夜學會ニ出席セサルモノ亦少ナシトセス。

人員	料理屋出入者ノ概況	夜學會ニ通學ノ有無
總員 八〇、	經驗セルモノ 三二、	通學セルモノ 四一、
	經驗ナキモノ 四八、	通學セサルモノ 三九、

四

壯丁ノ監督方法。

1 監督者。

入營前ノ壯丁ヲ監督スルハ主トシテ家庭ニヨラサル可ラスト雖モ在郷軍人及學校教育者モ亦大ニ注意ヲ拂ハレンコトヲ希望ス思慮ニ乏シキ青年ハ入營日ノ接近スルヤ已ニ家業ヲ捨テ、酒色ニ耽リ世人モ亦之ヲ怪マス父兄モ多クハ默許スルニ至ル嘗テ某師團ニアリテ徵兵検査當時其合格者ニ四十七名ノ花柳病ヲ有セシニ入隊時ニ至リ百五十七名ニ増加セルカ如キハ其一例ニシテ實ニ慨嘆ニ堪エサル所ナリ。

余ハ左ノ如キ方法ニヨリ責任者ヲ選ヒ以テ監督ノ任ニ當ラレンコトヲ望ム。

- イ 家庭及親戚。
  - ロ 市長村長及在郷軍人會。
  - ハ 國民教育者特ニ補習教育ノ任ニ在ルモノ。
  - ニ 青年會又ハ組合。
  - 2 入隊前二三日間ノ監督。
- 精神興奮セル幾多ノ壯丁ハ衛戍地ニ到着スルヤ直チニ金錢ヲ亂費シ附添人

モ亦敢テ之ヲ願ミサルカ如シ豫備教育ニ於テ注入セル精神ハ已ニ水泡ニ歸シ更ラニ其存在ヲ認ムルコト能ハサルノミナラス花柳ノ巷ニ出入スルモノノ増加ヲ見ルハ左ノ統計ニヨリテ明カナリ。

明年四十四年度某師管入營兵ノ遊興費

某衛戍地	遊興人員	消費		一人平均
		高	均	
某衛戍地	二二六、	四一四、〇	一、八三三	
某衛戍地	三、	二、八	〇、八六〇	
某衛戍地	一四一、	一八八、〇	一、三三五	
某衛戍地	二二八、	二九〇、〇	一、二七二	
某衛戍地	四八七、	五二六、〇	一、〇八一	
計	一〇八五、	一四二一、〇	一、三一〇	

3 起居ヲ嚴格ニスルコト。

軍隊内務書ノ綱領ニ曰ク壯丁ノ始メテ入營スルヤ生活状態ノ劇變ニヨリ頗ル其心性ヲ刺戟シテ鋭敏ナラシムルモノアリ故ニ上官ハ初メヨリ懇篤ニ之ヲ誘導シ漸時營内ノ起居ニ慣レシメ遂ニ兵營生活ハ一舉一動各規準スル所

五

4. ホ 長上ニ對スル禮儀。 身體検査。

附近ノ醫師又ハ學校醫ヲシテ壯丁ノ身體ヲ検査シ常ニ健康ノ度ヲ審ニスルハ監督上特ニ必要ナリ。 豫習教育實施上ノ注意。

第九節 新入營者ニ行フ豫習教育ニ就テ六週間現役兵ニ對スル希望

アリテ苟クモ放肆偷安ヲ許サス些少ノ怠慢過失モ上官ノ矯正ト督責トヲ免レサルコトヲ悟ラシメ以テ自然ニ其品性ヲ謹嚴方正ナラシムヘシ云々即チ軍隊ニ在リテハ漸時軍隊ノ起居ニ慣熟セシムル如ク計畫シツ、アリト雖モ入營後直チニ舊弊ヲ改善セントスルハ一層ノ努力ヲ要スルヲ以テ入營前已ニ其改善ニ心掛クルヲ可トスル者少ナカラス其主ナル者ヲ左ニ列舉スレハ。  
イ 六合食ノ生活(通常百七十五夕)。  
ロ 時間ノ確守。  
ハ 姿勢態度ノ嚴格。  
ニ 言語ノ明瞭。  
ホ 長上ニ對スル禮儀。

1 豫習教育ヲ行フ場所

學校又ハ寺院ヲ可トス而シテ余ヲシテ之ヲ論セシムレハ學校ヲ以テ最モ適當トス是レ御眞影ヲ拜シ勅諭讀法ノ朗讀等ニ便ナルト又一方ニ於テハ兒童ニ必任義務兵ノ精神ヲ鼓吹スル補助トナルヲ以テナリ。

2 豫習教育開始ト共ニ勅諭ノ奉讀ヲ行フ

豫習教育ノ爲メ集合セハ必ス勅諭ヲ奉讀シ然ル後教育ニ移ルヘシ。

3 豫習教育ノ時刻

休(祭)日等ノ午後ヲ以テ之ニ充ツヘシ是レ午前午後ノ終日實施スルハ青年ヲシテ嫌念ノ念ヲ生セシムルト又一方ニハ家計上ヨリ生スル缺席者ニ對シ普及ヲ顧慮スルカタメナリ。

4 服裝

質素儉約ヲ旨トシ而カモ野鄙ヲ避クヘシ特ニ毎回勅諭ノ奉讀ヲ行フトキハ羽織袴ヲ着用セシムヘシ。

5 壯丁ト父兄トノ連繫ヲ維持スヘシ

六

入隊者ノ心得ヲ教訓スルトキハ必ス父兄ヲ列席セシメ其趣旨ノ貫徹ヲ計ルヲ要ス。  
豫習教育豫定進度表。

回数	科目	至自	實施者	至自	實施者	摘要
日	目	時	者	時	者	
一	御眞影拜讀	至自	分會長教師	至自	分會長	父兄出席
二	勅諭奉讀	三二	分會長	四三	分會長	
三	國體ノ尊嚴		教師		教師	
四	御歴朝ノ高德		教師		教師	
五	勅諭		分會長		分會長	父兄出席
六	古今忠勇義烈談		分會長		分會長	
七	御歴朝ノ高德		教師		教師	
八	習字算術		教師		教師	
九	勅諭		分會長		分會長	
			入隊準備		分會長	父兄出席

備考 一 本表以外ニ在郷軍人ノ簡閱點呼ニ出席セシム。 二 毎日ナルヘク擊劍角力ヲ行フ。

第九節 新入營者ニ行フ豫習教育ニ就テ六週間現役兵ニ對スル希望

第十節 戊申詔勅ノ教育

六週間現役兵中戊申詔勅ノ暗記ハ皆ナ良ク之ヲ行フト雖モ詔勅ヲ下賜セラレタル明治天皇ノ皇御心ノ存スル所ヲ質スルニ十分ナル答解ヲナスモノ少ナキニ依リ余カ摘講セシ要旨ヲ述ヘテ參考ニ供ス。

- 1 戊申ノ詔勅ノ大意。
  - 2 軍人勅諭ト戊申詔勅トノ關係。
  - 3 何故ニ戊申詔勅ヲ下賜セラレシカ。
  - 4 國民ノ覺悟。
- 以下述フル所ハ何故ニ戊申詔勅ヲ下賜セラレシヤニ就キ國民狀態ノ内容ニ涉リテ述ヘントス。

國名	平時	豫備	戰時
英國	六二、 <sup>万</sup>	三三八、 <sup>万</sup>	四〇〇、〇

2 富カノ狀態。

佛	露	埃	伊	英	日
五五、	一五〇、	二〇七、	二〇七、	一五〇、	二〇七、
四〇、	三三〇、	四五〇、	一八〇、	一〇四、	一五〇、
二二、	一三九、	一〇四、	八〇、	七六、	一五〇、
二五、	一〇四、	七六、	七六、	七六、	七六、
二二、	一〇四、	七六、	七六、	七六、	七六、

1 借財ノ狀態。

日	本	英	國	米	國
一三三、 <sup>円</sup>	三〇三〇、 <sup>円</sup>	三〇三〇、 <sup>円</sup>	三〇三〇、 <sup>円</sup>	三〇三〇、 <sup>円</sup>	四三四、〇、 <sup>円</sup>

明治三十年	明治四十年	明治四十二年
四億二千萬圓	二十二億圓	二十六億圓

第十節 戊申詔勅ノ教育

口 歲入一八一年ノ平均明治三十七年度。

日本	六〇、 <small>万円</small>
英國	三六〇、 <small>万円</small>
米國	四五五、 <small>万円</small>

3 軍事費。

陸海軍別	明治二十年	明治三十年	明治四十年	明治四十三年
陸軍	一二〇〇、 <small>万円</small>	六〇〇〇、 <small>万円</small>	一二六〇〇、 <small>万円</small>	八五〇〇、 <small>万円</small>
海軍	九〇〇、	五〇〇〇、	七二〇〇、	七五〇〇、

4 實業界。

イ 米ノ產出。

明治三十三年	明治三十五年	明治三十七年	明治四十年	明治四十一年	明治四十二年
四一四六、 <small>万石</small>	三六九三、 <small>万石</small>	五一四三、 <small>万石</small>	四九〇五、 <small>万石</small>	五一九三、 <small>万石</small>	五二九四、 <small>万石</small>

口 酒ノ製造高。

明治三十三年	明治三十五年	明治三十七年	明治四十年
四三五、 <small>万石</small>	四二六、 <small>万石</small>	三三七、 <small>万石</small>	四六五、 <small>万石</small>

5 輸入品及輸出品ノ總高。

輸出入	明治三十年	明治三十五年	明治三十七年	明治四十年	明治四十二年
輸入	二七四〇〇、 <small>万円</small>	三〇〇〇〇、 <small>万円</small>	三八四〇〇、 <small>万円</small>	五一一〇〇、 <small>万円</small>	四〇九〇〇、 <small>万円</small>
輸出	一七七〇〇、	二八一〇〇、	三四一〇〇、	四五五〇〇、	四三五〇〇、

6 諸外國トノ比較。

國名	貿易額	鐵道ノ長	噸數
英國	一四〇、 <small>億万円</small>	二二〇〇〇哩	一八〇〇〇
獨逸	八〇、	三六〇〇〇	四〇〇
北米	七四、	二二六〇〇〇	四〇〇
佛國	四六、	二九〇〇〇	一七〇
伊國	一九、	一〇〇〇〇	一一〇
日本	九、	五〇〇〇	一〇〇

第十節 戊申詔勅ノ教育



7  
汽○車○ノ○長○サ○。

國	名	每百平方哩	人口一萬ニツキ
佛	(本國)	一、四、〇	一、〇
露	(本國)	一、四	三、〇
米	國	〇、六	三、八、五
日	本	三、〇	三、〇
			七、〇

第十一節

軍人勅諭ノ五ヶ條ヲ兒童ニ

鼓吹スル講話案

一  
五〇〇條ト五體。

勅諭ノ五ヶ條ハ之ヲ人身ニ譬フルニ頭首手足ノ五體ト見テ差支ナカラシ先ツ五ヶ條ノ方ニテハ忠節ヲ第一ニ置カレ之カ他ノ四ヶ條ノ根本トナル道理ナリ若シ軍人ニ忠節ノ心アレハ禮儀武勇信義質素モ自然ニ守リ得ルニ至ルヘシ又忠節ノ忠ハ誠忠トモ忠實トモ稱シ心ノ誠ノコトナリ或ル俗歌ニ。



口と心に釘打つならば忠と云ふ字になるわいな。

此誠ノ節義アルモノヲ忠節トナス、此忠節ヲ君ニ對シ國ニ對シテ盡スヲ以テ忠節中ノ最モ大ナルモノトス、サレハ忠節ハ軍人ノ心得ノ第一ニシテ他ノ四ヶ條ノ根本トナルモノナリ依ツテ之ヲ人身ニ譬フレハ頭首ニ相等シ軍人ノ頭首トナルナリ、一般國民ニ於テモ忠節ヲ諸徳ノ頭首ト心得、國家ノ上ニアリテハ天皇陛下ヲ頭首ト崇メ奉リ道德ノ上ニテハ忠節ヲ頭首ト心得サルヘカラス。天次ニ禮儀ト武勇トハ軍人ノ心得中忠節ニ次キタル大切ノ條目ニテ諸徳中最モ

第十一節 軍人勅諭ノ五ヶ條ヲ兒童ニ鼓吹スル講話案

カアリ且ツ働キノアルモノナレハ之ヲ左右兩手ニ比スルヲ可トセン先ツ禮儀ハ軍隊ニ最モ必要ナル規律服従ニ關スル心得ナレハ軍人中苟クモ此心得ヲ缺ケハ一致團結ヲ破ルヘシ又武勇ハ軍人ノ特性トモ稱スヘキモノニシテ苟クモ之ヲ缺カハ戰ニ望ミ敵ニ當ルコトヲ得サレハ此二ヶ條ハ恰モ人身ニ兩手アル如ク軍人ノ兩手ト見ルヲ得ヘシ其中武勇ハ右ノ手ニ當リ禮儀ハ左ノ手ニ當ル何トナレハ武勇ハ敵ニ對シ戰ニ臨ム時ニ殊更ニ要スルモノナレハ畢竟外ニ對スル效用ヲ具スルモノニシテ恰モ右手ノ働キノ如シ之ニ反シ禮儀ハ内部ヲ整ヘ味方ヲ一致サスルカ如キ凡テ内部ニ對スル方ナレハ左手ノ良ク物ヲ支持シ右手ノ働キヲ助クルニ等シ例ヘハ食事スルニ右手ニ箸ヲ取り左手ニ椀ヲ持シ兩手各其職ヲ異ニスルカ如ク武勇ト禮儀トハ其働キヲ異ニスルカ如シ然レトモ二者何レモ軍人ニ取リテハ大切ナル心得ナリ而シテ是レ獨リ軍人ノミナラス一般國民ニ於テモ此二ヶ條ノ心得ハ肝要ナリ凡テ社會ノ秩序ハ禮儀ヨリ起ラサルナク禮儀アリ秩序アリテ始メテ國家ノ安寧幸福ヲ得ヘシ。

次ニ信義ト質素トノ二ハ軍人ニ限ラス凡テ國民ノ身ヲ立テ世ニ處スルニ必要

ナル心得ニシテ已ニ之ヲ以テ立身ノ本トスルハ人ノ兩足ニ比シ得ヘシ兩足ハ良ク身體ヲ支ヘテ立タシムルニ大切ナル如ク信義ト質素トハ人ノ一身一家ヲ支ヘテ世ニ立タシムルニ大切ナルモノナリ若シ此信義ヲ商業ノ上ニ移セハ所謂信用トナルヘク世ノ信用ハ全ク人ノ信義ヲ重ンスルヨリ起ルモノナリサレハ此五ヶ條ハ軍人ハ勿論凡テノ國民ニ取リテ頭首手足ノ五體ト同様ニ心得ヘテ差支ナカルヘシ。

次ニ五ヶ條ノ精神タル一ノ誠心ハ何ニ比スヘキヤト謂フニ胸ト見ルヲ可トスヘシ胸カ五體ノ中心ナルコトハ誠心カ五ヶ條ノ中心ナルカ如シサレハ軍人ハ勿論一般國民ト雖モ一ノ誠心ヲ胸トシ忠節ヲ頭トシ禮儀ヲ左手トシ武勇ヲ右手トシ信義質素ヲ左右兩足トシテ世ニ立タハ實ニ圓滿完備ノ人間ト言フヲ得ヘシ。

## 二 五ヶ條ト五指

五ヶ條ハ五指ニシテ誠心ハ一拳ナリ軍人ノ精神ヲ開ケハ忠節、禮儀、武勇、信義、質素トナル、合スレハ一ノ誠心トナル。

五指中ノ親指ハ忠節ニ當リ人指ハ禮儀ニ當リ中指ハ武勇ニ當リ薬指ハ信義ニ當リ小指ハ質素ニ當ル、親指ハ五指ノ頭首ニシテ他ノ指ハ之ニ從屬スルコト恰モ忠節ハ他ノ四條ノ頭首ナルカ如シ次ニ人指ハ物ヲ指示スルヲ職トシ外ニ向ツテ最モ其用ヲ達スルモノナレハ恰モ禮儀カ他ニ對シテ舉動ノ心得ヲ指示シ人ヲシテ其向フ所ヲ誤ラサシムルニ効用アルカ如シ。

次ニ中指ハ五指ノ中央ニ立チテ其丈ケ最モ高ク自然ニ五指ニ長タルノ相アルハ武勇ノ徳ニ當ルヘシ次ニ薬指ハ食物ノ溫度ヤ味ヲ判定スル役目ニシテ物ノ調理ヲナスニ其用アレハ五ヶ條中ノ信義カ人心ト人心トノ間ヲ調和スルノ効用ニ合シ次ニ小指ハ五指中ノ最小最短ナルモノナレハ外ニ對シテ何等ノ効用ナキモ内ニ對シテハ他ノ四指ニ劣ラサル効用ヲ有ス例ヘハ耳ノ中ノ痒キ場合ニハ大ハ小ヲ兼ヌルト云ヘ親指ニテハ不都合ナルヘシ斯クノ如ク内部ヲ治ムル働キヲ有スルコト五ヶ條中ノ質素ニ相等スヘシ是レ質素ハ外ニ對シテ直接ノ効ナキモ一身一家ノ内ヲ治ムルニ其効最モ著シキモノナリ。

此所ニ一ノ俗諺アリ。

指てさへ親が先きに寝て子が先きに起きる。

人ガ指ヲ折リテ物ヲ數フルトキニ先ヅ親指ノ次ニ人指ヲ屈シ次ニ中指次ニ薬指ヲ屈シ最後ニ子指ヲ屈スルヲ見テ之ヲ家族ノ夜中寝ニ就クニ比シ兩親先ヅ寝テ最後ニ子ガ寝ルベキコトヲ教訓トセルコトナリ又五指ヲ屈シ終リ更ニ數ヘントスルトキハ先ヅ子指ヲ起シ次ニ薬指次ニ中指最後ニ親指ヲ起スモノナルガ之ヲ翌朝家族ノ起キテ臥床ヲ離ル、ニ比シ子ハ第一ニ起キ親ハ最後ニ起クベキ道理ナリトノ訓言デアアル然ルニ西洋人ハ物ヲ數フルニ指ヲ屈スルトキモ伸ストキモ皆ナ親指ヨリ始メテ子指ニ及ボスト云フ果シテ然ラバ。

寝るときも起るときも親が先き。

是レ東西教訓ノ異ナル所以ノ一ナラン。

以上述フル所ハ寝ルトキ起ルトキノ教訓ニアラスシテ此五ヶ條ヲ見ルニ身ヲ修メ國ヲ治ム順序ハ矢張り五指ヲ以テ物ヲ數フル順序ニヨルヘキコトヲ説カシカ爲メナリ先ツ國ニ對シテ盡スニハ其最モ重キモノヨリ輕キモノニ及ボス順序ヲ取ルカ當然ナレハ指ヲ屈スル如ク忠節ヨリ始メテ次第ニ質素ニ及ボス

ヘク又身ヲ修ムルトキハ其最モ卑キモノヨリ高キニ及ホス順序ヲ用ヒ指ヲ伸ストキニ子指ヨリ始ムル如ク先ツ質素ヲ守リ次ニ信義禮儀ノ順ニ高キニ及ホスヘシ。

以上ハ修身教會雜誌ヨリ拔萃セルモノニシテ斯ク卑近ノ譬喩ヲ設ケテ説ケル所以ノモノハ兒童ニ了解セシメンコトヲ主トシ尙ホ且ツ毎指ヲ屈スル毎ニ此五ヶ條ヲ思ヒ出シテ其身ヲ省ミンカタメナリ。

忠と禮、武勇信義と質素とを括くりて見れば一は誠心一は忠、二は禮、三は武勇なり四信五素にて都合五ヶ條。

## 第十二節 兒童ニ軍人精神ヲ鼓吹スル手段

一 兒童ニ軍人精神ヲ鼓吹スル必要。

露國參謀少將「エ、マルツキ」ノ「氏」ハ日露戰爭勝敗ノ原因ヲ列擧セル其一節ニ曰ク。

「軍事教育ニ關シテハ我兵ハ敵兵ニ比シ著シク劣等ナリ日本ニ於テハ軍務ノ修

養ハ已ニ入隊前久シク行ハル、モノトス即チ小學校ニ於テ已ニ兒童ニ隊列ノ編合ヲ教ヘ中學校ノ上級學生ハ銃ノ組合セ結合ヲ知ルヲ要ス此外、人民全體ハ愛國ノ精神ヲ鼓吹セラレ居ルナリ然ルニ我露國ニ於テハ學校内ノ軍事教育皆無ナルノミナラス學生ノ腦裏ニ世界一家説ヲ注入シ戰爭ヲ厭ヒ軍事上ノ勇氣ヲ蔑視セシムルニ努力ス云々」。

又曰ク。

「日本人ハ小學ヨリ大學ニ至ルマテ愛國ノ精神ヲ以テ薰陶セラレ又健全ナル帝國主義ト武勳尊崇ノ風ヲ鼓吹サレ居ルカ故ニ軍隊ヲ敬愛スルコト非常ニシテ壯丁ノ召集ハ一家ノ祝賀スル所トナリ武勳々章ハ社會ニ於ケル人格ノ保證トナリ戰死者ノタメ社殿ヲ建設シ一年二回大祭ヲ行ヒ遺族ハ常ニ特別ナル待遇ヲ蒙ルモノトス。

然ルニ露國ニ於ケル事情ハ之ト全ク相反セリ即チ小學校ヲ初メトシ大學校ニ至ルマテ愛國主義ヲ固陋ノ見解ナリト教ヘ戰爭ハ罪惡ニシテ武勳ハ尊ムヘキモノニアラス又軍隊ハ進歩ノ大障礙ニシテ軍務ハ賤ムヘキ職業ナリト説ケリ

又明治廿四年初夏漫遊ノタメ來朝セン佛國有名ノ將官「ドネクリエ」ハ「千九百二年ニ於ケル日本ノ兵力」ト題シ佛國某雜誌ニ記述セル一節ニ曰ク。

「日本現今ノ兵力ハ政府國民教育ノ方法ニ歸スヘキモノ多クナリトス今政府カ如何ナル細心ヲ以テ兒童ノ軍人精神ヲ啓發スルカヲ研究スルハ興味アル問題ナルヘシ日本官立私立諸學校ニ於テハ千八百八十六年以來兵式體操ノ教育ヲ必修科トシ生徒ノ精神上、肉體上ノ發育ニ對シテ好成績ヲ舉クルヲ得タリ故ニ青年男子ハ其學校ヲ終フルニ至レハ單ニ射撃ト戰鬪法トノ實習ヲ要スルノミ女子ノ如キモ亦必ス體操科ヲ學ハサルヘカラス今最近ノ調査ニ依レハ全國小學校ノ數ハ三萬七千ニシテ教師八十一萬生徒五百十三萬五千人、中學ノ數ハ二百五十八ニシテ教師四千七百、生徒九萬五千人アリ此數字ハ即チ尙武組織ノ盛大ナルヲ示ス所以ニシテ女子モ亦看護婦ノ任務ニ當ルモノトシ其精神ハ極度ノ愛國的自負心ヨリ出ツルモノナリ云々。

昔ノ鐵血宰相ハ獨逸帝國隆盛ノ秘訣ヲ斷言シテ云ヘリ。  
「余若シ國民教育ノ基礎ヲ發見セザリシナラハ予カ事業ハ何等ノ効果ヲモ來

サ、リシナラン。

而シテ所謂國民教育ノ基礎トハ畢竟忠君愛國ノ至誠ニ外ナラス。

小學校令ニ曰ク。

「小學校ハ兒童ノ身體ノ發育ニ留意シテ道德教育及國民教育ノ基礎並ニ其生活ニ必須ナル普通ノ智識技能ヲ授クルヲ以テ本旨トス」。

小學校令施行規則第二條ニ曰ク。

「尋常小學校ニ於テハ初ハ孝悌親愛勤儉恭敬信義勇等ニ就キ實踐ニ適切ナル近易ノ事項ヲ授ケ漸々進ミテハ國家社會ニ對スル責務ノ一斑ニ及ホシ以テ品位ヲ高クシ思想ヲ固クシ且ツ進取ノ氣象ニ長シ公德ヲ尙ハシメ忠君愛國ノ志氣ヲ養ハンコトヲ務ムヘシ」。

以上述フル所ノ忠君愛國ノ精神タルヤ即チ大和魂ニシテ更ニ適切ナル文字ニヨリテ表彰スレハ即チ軍人精神ナリ嗚呼國民皆兵ノ制度ヲ採レル日本帝國ノ小學校ニ於テ軍人精神ノ鼓吹ヲ圖ルモノ豈一大要務ト謂ハサルヲ得ンヤ。

二 如何ニシテ軍人精神ヲ鼓吹スヘキカ。

平田篤胤ノ「入學問答」ニ曰ク。

教ト申スモノハ人ノ心ニ深ク染マヌモノニ御座候其ハ近ク申候ハマ武士ノ心ヲ勇メ候ニ軍ニ出テハ先驅セヨ人ニ後レナト記シ候教ノ書ヲ見セ候ヨリハ右ノ勇士等ノ人ニ後レズ先驅高名シタル事實ノ軍書ヲ讀マセ候方ガ深ク心ニ感ジ入り候テ我モ事ニ當リテハ昔ノ誰々ガ如クナサント猛心ノ振起リ候ヘドモ教訓ノ書ニテハサシモ憤慨ノ志ハ發ラヌモノニ御座候カノ君ノ仇ニハ俱ニ天ヲ戴カズナド申ス教言ヨリハ大石内藏助ナドガ千辛萬苦ノ難儀ヲシテ吉良殿ヲ討タル事實ノ身ニシミジミトシ髮モ逆立チ涙モコボレ候程ニ感ジ入り候ニテ察セラルヘク是ハ誰モ覺エアルベキコト、存ジ候」ト。

軍隊内務書ノ綱領ニ曰ク。

勅諭ノ御趣意ヲ銘肝セシメ我國體ノ萬國ニ冠絶セル所以ト聖朝御歴代ノ高德トヲ講話シ兼テ古今忠勇義烈ノ事蹟ヲ述ヘ又諸規則典範令ヲ説明シテ近世戰鬪ノ性質ヲ知ラシメ以テ戰爭ノ勝利ハ軍人精神充溢シ軍紀克ク行ハレ協同一致ノ觀念熾ニシテ勇往邁進スル軍隊ニ歸スルモノナルコトヲ了解セ

シムヘシ。

蓋シ鼓吹ノ方法タルヤ上述ノ要旨ニ從ハ、即チ可ナランカ。

三 今軍人精神ノ鼓吹方法ヲ各科目ニ就テ詳述スル所アラントス。

1 歴史及地理ノ教授。

賢明ナル「カイゼル」陛下ハ特ニ小學校生徒ノタメ或ハ軍艦ノ模型ヲ下賜シ或ハ強ヒテ演習ヲ參觀セシメ以テ軍人精神ノ鼓吹ニ勉メサセ給ヘリ。幸福ナル哉日本帝國ニハ古來幾百千ノ實例アリ善ク容易ニ今ノ小學生徒ニ對シ軍人精神ヲ鼓吹シ得ントス實ニ日本全國幾ント凡テ小學校ハ行クコト十里ナラスシテ古城ノ跡若クハ古戰場ノ跡ニ達シ得ヘシ日露戰爭後、來朝セル佛國將官「ドネグリエ」氏ハ其本國ノ雜誌ニ投書シテ曰ク。

試ミニ毎年四月中旬神佛巡禮ノ時期ニ際シ東京四十七士ノ寺院ニ往ケ必ス左ノ如キ奇異ナル光景ヲ見ン抑々此寺院ハ四十七名ノ浪人其主人ヲ失ヒタル武士ヲ祭ル所ニシテ其墳墓モ亦此所ニ存ス門口ニハ數「サンチム」ヲ以テ線香ヲ賣ルモノアリ幾多ノ日本婦人ハ六歳乃至八歳ナル兒童ノ手

ヲ引キテ此所ニ參詣シ四十七箇ノ墓石ヲ並列セル圍垣ノ内ニ入ル各墓石ノ前ニハ神壇タル小石塊アリ其左方ノ箇ニハ花ヲ插ミ中央ノ凹鑿部ニハ神水ニテ盛り右方ノ石ニハ香ヲ焚クヘシ母ハ皆ナ其子ヲシテ點火シタル線香ヲ各神壇ニ供ヘテ之ヲ拜セシム人ノ知ル如ク四十七士ハ其主君カ大官ノ侮辱ヲ受ケ之ヲ刃傷シテ切腹ヲ命セラレタルヲ恨ミ其主君ノ爲メニ讎ヲ報シタル後自殺シタルモノナリ畢竟日本婦人カ此忠義ノ士ノタメニ宗教上ノ敬禮ヲ行フハ其子ニ對シ他日名譽或ハ忠義ノ爲メニ生命ヲ犠牲トナスヘキコトヲ教ユルナリト。

又露國ノ某將官ハ露國ノ弱點ト稱シ我帝國ノ小學校ニ就テ述ヘテ曰ク。

小學校ニ於テ歴史ヲ教授スル際兒童ニ武勳ノ尊ムヘキ所以ヲ説明スルニ努メ又高等學校ノ學生ニ世界ニ家族ニアラスシテ健全ナル帝國主義ノ講義ヲ聽キ壯丁ニシテ兵役ニ徵集セラレハヤ歡喜雀躍シテ之ニ應シ其家族モ亦之ヲ光榮ナリトシ兵役ニ就キタル者ハ一般ニ尊敬ヲ受ク若シ武勳々章ヲ得ンカ世人ノ之ヲ尊重スルコト非常ナリ加之戰死者ノタメニハ社殿

ヲ建立シ一定ノ時日ニ大祭ヲ執行シ遺族ハ特別ノ待遇ヲ蒙リ居ルナリ云云。  
地理教授ニ就テハ。

某ノ山ハ義士某ノ戰死シタル所ナリ今尙ホ山頂千古ノ綠濃カナル老松ヲ見ル其松ノ木蔭コソ長ヘニ色褪メヌ義士ノ血潮ニ染ミタル所ナルヨト説キ山脈ヲ教ユルニ。

山を抜く力なくとも天地の

動くは人の誠なりけり。

ト示シ或ハ山道ヲ教ユルニ。

手習は坂に車を押す如く

油断をすれば後にもどるぞ。

ト説カハ如何。

静岡縣ノ地理ニ於テ「御殿場」ヨリ見タル富士ノ姿ハ斯クノ如シ御殿場ノ東北一里ニシテ足柄村アリ是ハ南朝ノ忠臣新田義貞カ足利尊氏ト雌雄ヲ争ヒタ

ル所ナリト説キ若シ夫レ「太平記」ヨリ脇屋義助カ一子義治トテ時ニ年僅カニ十三歳ナリケルガ父ニ從ツテ戰場ニ在リト語リ。

如何ニシテ紛レタリケン郎等三騎相共ニ敵ノ中ニゾ殘リケル此人幼稚ナレトモ心早キ人ニテ笠符引キ切リテ投ケ捨テ髮ヲ亂シテ顔ニ振り懸ケテ敵ニ見知ラレジト、サワガヌ體ニゾオハシケル父義助是ヲハ知ラス義治カ見エヌハ誅レヌルカ又生捕ラレヌルカ二ツノ間ヲハ離レジ彼カ死生ヲ見スハ片時ノ命生キテモ何カハスヘキ勇士ノ戰場ニ命ヲ捨ル事只タ是レ子孫ノ後榮ヲ思フガ故ナリ。

ト面白ク説キテ聞セナハ臚氣ナガラ吾人ノ祖先ハ幼少ナカラモ如何ニ武勇ノ氣象ニ富ミ居タリシカヲ知ラシムルニ足ルヘシ。

海ヲ説クニ潛水艇ト共ニ從容死ニツキタル佐久間海軍大尉ヲ以テシ或ハ軍旗ヲ燒キ 天皇陛下ノ萬歳ヲ三唱シテ部下ト共ニ悉ク魚腹ニ葬ラレタル須知中佐ヲ以テセハ如何。

## 2

理科教授。

理科ノ如キ比較的乾燥ナル學科ト雖モ教師其人ノ注意ニヨラハ又此種ノ効果ヲ奏シ得サルノ理アラシヤ。

櫻ニツキテハ武士道ヲ論シ、梅ニツキテハ菅公ノ忠節ヲ嘆美スレハ如何。

例ハ柑類ニ就イテ講シツ、アラシカ。

第十一代垂仁天皇ノ御時田道間守ナルモノ君命ヲ奉シテ常世ノ國即チ支那南方沿岸ノ地ニ至リ、非時杳果ヲ求メ往還ニ費ス實ニ十年幾多ノ辛酸ヲ嘗メ辛シテ歸リ來レハ、アナアハレ天皇已ニ崩シテ座サス間守悲嘆禁セス「吾天命ヲ受ケ百難ヲ冒シ萬里ノ波濤ヲ越エテ絶境ニ往ク常世ノ國ハ神仙ノ秘區最モ臻リ難シ先帝ノ神靈ニヨリ僅カニ歸ルコトヲ得タルニ天皇已ニ崩シ給ヒ復命スル所ナシ生キテ亦何ノ益アラシ。」

ト遂ニ 天皇ノ陵ニ向ヒ叫哭シテ自殺シタリト説カハ實ニ吾人ノ祖先ガ君ヲ思フ心ノ如何ニ醇潔ニシテ眞實ナリシカヲ知ラシムルヲ得ン。

## 3

動植物學教授。

今二三ノ例ヲ舉ケテ參考トナス。



君のため國のためと思はずば

雪も螢も何かあつめん。

虎吼る國の境の物部の

守る限りは安けかりけり

色々に匂ふ言葉の花よりも

我は岩根の山吹の花。

蔭高き松の梢に咲きなから

上見ぬ藤の花ぞゆかしき。

我れと來て遊へよ親のない雀。

二兎を追ふものは一兎をも得ず。

豹は死して皮を留め人は死して名を留む

鷹は死すとも穂をつます。

鳩に三枝の禮あり。

實る程頭は低き稻穂哉。

下る程下に手をつく藤の花。

上見れば限りなしとや百合の花。

朝顔に釣瓶とられて貰ひ水。

#### 4 音樂教授。

壯烈ナル日本海々戰ノ歌、悲壯ナル湊川ノ歌、壯快ナル日本刀ノ歌ヲ唱ヘシム  
カ如キ時ニハ沈痛ナル忠臣ヲ弔フノ歌又時ニハ快活ナル櫻花ノ歌ヲ唱ヘシ  
ムルカ如キ、日本兒童ノ資性ニ適合シ以テ知ラス識ラスノ間軍人精神ヲ鼓吹  
シ得ルモノ亦尠少ナラサルヲ知ル。

種々ナル歐米ノ歌調ヲ教授シテ以テ心ヲ慰メ氣ヲ和ケ美シキ性格ヲ養成セ  
ントノミ欲スル音樂教師ヨ日本兒童ハ小鳥ニ餌ヲ與フル花草ヲ培フ趣味ニ  
ハ暗キモ木刀ヲ腰ニシテ賊ヲ討チ紙ノ冑ニ勇士ノ身振り勇シク敵陣ニ突入  
スル國民性ヲ思ハサルカ。

昔ハ支那鄭ノ子産一國ノ音樂ヲ聽キ直チニ其國ノ治亂興廢ヲ察シ得タリト  
云フ、弱キ音樂ハ弱キ國民氣象ノ發現ニシテ又國民ノ士氣ヲ弱カラシムト豈

夫レ音楽ヲ以テ一片ノ遊戯トナスヲ得ンヤ。

### 第十三節

### 兒童ニ攻撃精神ヲ鼓吹セシ

ムル手段

#### 一 訓話

##### 1 國語教育

ヘイタイガ、ナランデ、キマス。 アレハ、ゲンキデス。

我陸軍 水兵ノ手紙 我海軍 少年鼓手。

是等ニ就テ戦争ノ觀念ヲ授クルト同時ニ勝敗ノ數ハ必スシモ兵力ノ多寡ニ依ラス精練ニシテ且ツ攻撃精神ニ富メル軍隊ハ毎ニ寡ヲ以テ衆ヲ破ルコトヲ訓話ス。

##### 2

##### 地理教育

天下ノ形勢ヲ示シテ戦闘ノ避クヘカラサル所以ヲ説キ且ツ過去ニ大戦役ノ概容ヲ示スト共ニ敗戦國ノ状態ヲ説キ又ハ列國ノ軍備、産業、經濟、富力等ヲ比

較シテ教育スルヲ可トス。

嘗テ彼得大帝曰ク「戦争ヲ侮蔑セハ國家ハ滅亡スヘシ」ト又現代ノ偉人「ルースヘルト」氏カ「戦争ヲ恐ル、國民ハ國家ヲ組織スル能ハス其國民ハ没落シ奴隷トナルヘシ」云々ト。

##### 3

##### 歴史教育

積極的方面ノ御歴代ノ高德ヲ説キ尙ホ古今ノ忠勇義烈ナル美談ヲ訓話シ進ミテ近世ノ戦闘ニ参加セル軍人ノ忠勇ヲ説クヘシ。

御歴代ノ高德中武力ヲ以テ國威ヲ發揮セラレシ 天皇ヲ左ニ擧ク。

- |      |       |      |      |      |
|------|-------|------|------|------|
| 神武天皇 | 崇神天皇  | 景行天皇 | 宣化天皇 | 欽明天皇 |
| 舒明天皇 | 齊明天皇  | 文武天皇 | 聖武天皇 | 淳和天皇 |
| 桓武天皇 | 後冷泉天皇 | 孝明天皇 | 明治天皇 |      |

##### 4

##### 理化教育

「飛ヒ込んだ力て浮ふ蛙哉」此飛ヒ込ムト云フコトハ即チ攻撃精神ニアラスシテ何ソヤ。

蟻 強犬 甲冑蟲 蜂等ノ攻撃的動作ヲ賞賛シ蜘蛛、摺鉢蟲等ノ防者ヲ誠ムヘシ。

鐵ニ就テハ銃劔突撃ヲ説キ鐵線ニ就テハ鐵條網ノ破壊ヲ論シ鉛ニ就テハ彈丸ヲ説ク等其例枚擧ニ遑アラズ。

肉彈ノ一節ヲ拔萃シテ參考ニ供ス。

二十二日の夜更らに武富大隊は前夜の怨恨を報せんものと一隊肅々前夜押破つたる鐵條網を越して猛然突撃に轉したが松岡大尉先づ傷づき其の大腿は切取られて復た起つ能はず三宅中尉は砲彈の爲めに背部を掠められて肺臓が飛び出した慘は更に慘なるを加へ烈は更に烈なるを増し前夜の成功に誇れる敵は我れ此所に立てり汝を待つことや久しと云はん許りの心憎き振舞である探照燈はクルリ／＼と轉映して我が突撃隊を照し光彈は切りに頭上に白光を輝かせて我れは見す／＼敵の目標と露出する。

「突き込メ」突き込メ「ウワァー」ト跳り込んだ時の柳川大尉の勇しかりし武者振光彈の光に透して見ると半面は唐紅の血潮に染み右手に軍刀を閃かせて又

もや、突き込メ」と大音聲に叫んで進むたが此大尉の壯烈なる聲は最早再び聞え無かつた打ち込み打ち込む白刃は暗に閃いて亂るゝ葦の如きものがそれも次第に消え先の喊聲はハタと止み敵兵のワァ／＼と罵る聲のみが堡壘の間に聞えてゐる其の情なさ敵は勝ち誇りて胸牆上に狂喜舞躍する我れは悉く殞れて唯だ山成す屍、川成す血、嗚呼何等の恨事ぞ。

先に重傷を負ひたる松岡大尉は切斷せられたる大腿より血は瀧の如くに迸り出て呼吸は次第に迫つて來た大尉も自から命の至れるを知つて懐にした機密地圖を裂き鐵條網に罹つたまゝて天晴とは云ひながらも無殘なる最後を遂けた大尉を收容せんとして往きし者も往きし者も皆還らず共に大尉の傍に寄添ひて永遠に眠つた松岡大尉の壯烈なる最期は其後侍從武官を経て奏上せらるゝの光榮を荷ふた又彼の柳川大尉は數ヶ所の手疵に屈せず喊聲を放つて眞先驅に突入したが今一步にて敵壘へ乗込む其一刹那に又たもや一彈を蒙つて起つこと能はず遂に胸牆に倒れたが後に至つて知れた劍は折れ力は盡きて只た靜かに永久の休みを求めんとした大尉は無念や豺狼に等

しき敵人の刃に掛つて弄殺しにされたのである云々。  
術科教育。

露國某將官ハ日露戰爭ニ於ケル露國失敗ノ原因ノ一トシテ掲ケテ曰ク。  
「我露國ハ學校内ノ軍事教育皆無ナリ然ルニ日本國教師ハ單ニ國民ニ學事ヲ教  
ユルノミナラス初等教育ヨリ大學ニ至ルマテ愛國心ト軍事上ノ勇氣ヲ尊敬ス  
ル風ヲ養ヒタルカタメ赫々ノ勝利ヲ得タリシナリ」ト。

大正二年一月文部省ニ於テ公示セル擊劍柔術訓育ニ關スル注意ニアリ。

擊劍及柔術ハ其主眼トスル所身心ノ鍛練ニ在リト雖モ特ニ精神的訓練ニ重キ  
ヲ置クヘシ技術ノ末ニ走リ勝敗ヲ爭フヲ目的トスルカ如キ弊ヲ避クルヲ要ス  
……是レ實ニ我カ意ヲ得タルモノ邦家ノタメ賀セサルヲ得ンヤ。  
乃木希典述修養訓ノ一節ニ。

前略……併しなから運動其者が究極の目的ではない即ち學問及處世の手段で  
ある、されば學問を留守にして運動競技を主とするのは各自の餘程戒心すべ  
きところであらう。

予は平生思つて居るボート等でもあんな薄片な一寸擲れば直ぐに破れさう  
な物を作るよりも今少しく堅牢なやつを作り荒海の大怒濤をもどし、乗  
り切るやうな船を大勢で漕くと云ふ風にしたらどうであらうや、和船でも何  
でもよい速力が鈍いなら身體を丈夫にしてそれ丈の漕力をつければよいて  
はないか。

例を言つて見れば彼の徒歩競争などもさうである市中に出たら忽ち巡查に  
咎められさうな異様な風態をして走る等は薩張り合點が往かぬ予は斯う思  
ふそれよりも身體に何か重いものを着けて出来る丈け早く走る稽古でもや  
つてはどうか……中略……若い内は艱難の功を積まねばならぬ何でも難行  
苦行を鍛ひ上げたのでなくては駄目である、さうして此間に身體も強健に鍛  
練されるし精神も自つと修養されて人物の基礎——即ち確固とした根底を形  
つくる事が出来るのである……中略……又た鋤や鍬を以て耕作に従事す  
るのも後庭に出て薪割を試みるのも亦立派な運動て是等は更に其副産物と  
して特別の意味を有つて居る詳言すれば運動の目的は身體を鍛へると共に

精神を練り品性を陶冶するに在る即ち學生に向つて獎勵し得べき運動は必ず此目的に適ふところの運動競技であらねばならぬ而して其價値は亦茲に存するものである。

攻撃精神ノ養成上必要ナル術科ヲ擧クレハ。

イ 體操。

巾飛、高飛、駢歩、躍進、スキ、氷上。

ロ 教練。

行進、散開、散兵ノ運動、突撃、斥候。

ハ 遊戯。

角力、水泳、陣取、毬投、フットボール、戰遊ビ、雪合戰、棒押、木登、戰遊ヲ行ハントセハ攻防二區隊ニ編成シ攻者ハ散兵ノ要領ニ準シテ敵ニ近接シ最後ニ猛烈果敢ニ敵陣地ニ突込シ防者モ亦攻者ノ最近距離ニ近ツキタルトキ陣地ヲ棄テ、敵ニ突入ス、然レトモ兩者ハ二十米突以内ニ近接スルトヲ許サス唯タ教師ノ命ニ依リテ兩軍ノ一翼ヨリ角力又ハ引キ込ミヲ行ヒ

勝敗ヲ決シ敗者ハ退却シ勝者ハ之ヲ追撃スル如ク計畫スルヲ可トス。

#### 第十四節 露國少年軍隊ノ要領ヲ述ヘテ六週間

##### 現役兵ニ望ム

一千九百八十二年露曆一月八日露帝ハ自ラ其手帳ノ一片ニ左ノ希望ヲ述ヘテ陸軍大臣ニ公示セラレタリ。

僅少ナル報酬ヲ以テ豫後備役下士ヲシテ小學校ノ兒童ニ兵式教練及體操教育ヲ實施スルコト。

爾來小國民涵養ノ趣旨ヲ以テ各省連合會議ヲ開キ聖旨ヲ奉戴シ之ヲ遂行スル案ヲ討究シ一方露國各地ノ有志ハ之ヲ傳承シテ進ンテ小學校ニ此趣旨ヲ實行スルモノアリ而シテ該委員會ハ少年軍隊編成ヲ強制スル法定ノ制度ヲ決定スルニ至ラス目下先ツ當該師管長ノ内訓ヲ以テ之カ編成ヲ獎勵スルノ方針ヲ採リ只タ既報ノ如ク陸軍省附屬ノ特別委員會ハ獨リ學校ニ通學セサル兒童ノタメ少年隊ヲ編成スヘキ條令ヲ編纂シ過般皇帝ノ裁可ヲ得テ發布セリ然ルニ一方小學校兒童

編成隊ノ事業ハ一昨年バフムト郡小學校監ルツケトウイツチニヨリ長足ノ進歩ヲ呈シ其管内小學校ニ開設セシ小學校ノ軍隊教練及兵式體操ノ科程ハ全國内ノ模範トナリ露帝ハ昨年七月小學校兒童ニ軍事勤務ノ要素ヲ與ヘ且ツ齊整ナル教習ヲ得セシムルタメ各地軍隊ハ駐屯地域ニ於テ此種ノ施設ニ十分ノ補助ト便宜トヲ與フヘキ旨勅令セラレ陸軍省ハ同年省令第二九九五號ヲ以テ此旨ヲ各隊ニ布達セリ爾來此事業ハ全國ニ普及シ今ヤ各地ニ此編成ヲ見サルナク軍隊内下士卒ノ兒童ヲ以テセル少年軍隊ハ殆ント各聯隊ニ於テ見ルノ程度ニ達セリ之ヲ以テ本年八月十日露帝ハ全國各地ヨリ露都ニ參集セル少年軍隊ノ親閲ヲ行ヒ當日ニ參加セル兒童ハ文部省教務員交通省陸軍省商工務省等所轄ノ諸學校兒童等約六千人ニ及ヒタシケンドセバストボリオーテツサ等ヨリ來集シ是カ引率指揮官ハ將校八十五下士九僧侶百七十名ニ達セリ。

當日天覽ニ供セシ遊戲ハ。

- 一 銃ノ操法。
- 二 各種體操。

### 三 兵式教練。

#### 四 劍術及武術。

「チエルニゴルスキ」驃騎兵聯隊少年隊ハ「ミハイルアレキサンドルウキツチ」太公自ラ指揮ヲ取り其最少年者ハ實ニ五歳ニシテ十八九歳マテアリ彼等ハ夏休暇ヲ利用シテ八月三日ヨリ同七日ニ涉リ露都ニ集合シ滯在中博物館ヲ參觀シ市及有志ノ寄贈品及ヒ優遇ヲ受ケ露帝ノ親閱ノ翌日ヨリ逐次歸還セリ。

抑モ少年隊編成ノ濫觴ハ「ペートル」ノ父帝アレキセトウ「ミハイルウエツチカ」ペートルノ哺乳ノ幼時已ニ軍事的玩弄品ヲ以テ養育シ其生長ニ從ヒ附近ノ兒童ヲ集メテ少年隊ヲ組織シ「ペートル」ヲシテ之ヲ指揮セシメタルニ淵源シ爾來「ペートル」ノ手足タル親衛聯隊ノ編成トナリ今ヤ歴史上ノ遺物トナルニ至レリ幼皇太子劉覽ニ供ヘシ

#### 第一ノ理由ハ。

近ク日露戰爭ニ悲惨ノ敗衄ヲ蒙リ次テ麻ノ如ク亂レタル國狀ハ「ペートル」カ國難ヲ排シテ帝位ヲ確定シ不屈遂ニ「ボルタワ」ノ戰勝ニヨリ百年ノ大業ヲ開

キシ當時ニ髣髴セルモノアリトナシ當時モスコウ内ニ横ハレル鬱々タル英氣ヲ今ノ世ノ少年ニ移シ堅忍不拔ノ軍國的精神ヲ養ヒ帝國ノ素質ヲ改善セントスルニ在リ。

第二ノ理由ニ曰ク。

多年露國ニ心服シ近クハ千九百五年暴發セシ社會主義革命的ノ氣風官憲ノ壓迫ニヨリ方今僅カニ鋒先ヲ收メシモ商工ノ發達ニ連レ動モスレハ建國ノ基礎ヲ動搖スルモノアリトナシ軍隊的ニ養成セラレヘキ小國民ヲ以テ擁壓セントスルニ在リ。

第三ノ理由トシテ見ルヘキモノハ。

方今ノ學校教育ハ専ラ知育ノ發達ニ留意シ體育ヲ疎ンスル傾向アリ兵役ノ年限短縮トナリ兵營内ノ教育到底之ヲ完了スル能ハサルモノアリ是ヲ以テ學齡兒童ノ體育ヲ適當ニ發達セシムルト軍隊教練ノ要綱ヲ一般ニ了解セシメントスルニ在リ。

今ウキリナ軍管區内少年隊ノ要領ヲ擧クレハ。

1 少年隊ハ十歳以上十六歳迄ノ志願者兒童ニシテ左ノ各項ヲ充スモノヲ以テ編成ス。

イ 兩親又ハ之ニ代ルモノ、承諾ヲ要ス。

ロ 露國臣民ニシテ且ツ基督教ト回々教信者タルコト。

ハ 年齢ニ相應セシ普通ノ知識體格ヲ有スルモノ。

ニ 規定ノ制服ヲ其兩親絶對ニ非ラスニ於テ購求スルノ同意ヲ得ルコト。

ホ 毎月二十五哥ノ金額ヲ兒童ノ所有トシテ隊内金庫ニ格納ス。

2 少年隊編成ノ趣旨ハ左ノ要旨ニ基ク。

イ 皇帝及露國ノ爲メニ戰鬥スルコト。

ロ 相互ノ親睦。

ハ 長上ニ對スル絶體ノ服從。

ニ 弱キモノヲ助クルコト。

ホ 常ニ獨立ノ精神ヲ有シ絶エス進取的思想ヲ抱キ防禦又ハ保護ヲ行フニ當リテモ常ニ攻撃的ナルヘシ。

3 編成ノ要領

總隊長ノ下ニ二個ノ將軍ヲ置キ之ヲシテ黃禍防禦及鷲ノ一ヲ統率セシメ此各隊ハ各之ヲ五中隊ニ區分シ中隊ハ之ヲ半中隊ニ分チ半中隊以上ハ將校ヲ以テ之ニ任シ以下各學校生徒ヲ以テ之ヲ編成シ年者ヲ射手トシ中年者ヲ斥候トシ年少者ヲ戰友又ハ新兵トナス以上ノ如ク少年隊ノ編成ハ目下翕然トシテ全露西亞ニ蔓延シツベンスキウヲ少年隊編成委員長トシテ小學校其他ノ國民學校ニ施行スヘキ體操及教練用教科書ヲ編纂シ是ヲ各少年隊ニ採用セシメ各地軍隊ハ盛ニ之ヲ幫助シ隊内少年隊ハ常ニ軍隊ノ儀式ニ參列シ之ニ關スル冊子ノ出版又少カラス而カモ其標ニ榜スル迄ハ前記ノ理由ヲ出テサルモ之カ獎勵ノ辭一トシテ日本ニ對スル敗戰ノ不幸ヲ訴ヘサルナク而カモ多クハ小ナル黃人種トノ戰爭ニ於テ露國ノ國威ヲ失墜セル怨辭ナキハナシ此ノ如キ敵愾心ノ風習ニ養成セラル可キ是等小國民ハ果シテ如何ナル結果ヲ露國ニ齎スヘキヤ。

六週間現役兵の教育終

大正二年六月二十九日印刷  
大正二年七月三日發行

六週間現役兵の教育費付

全一册 金三十五錢 郵税四錢

發行者

東京市赤坂區表町二丁目一番地  
伊藤芳松

著者

軍隊教育研究會

印刷者

東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地  
山下注雄

印刷所

東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地  
株式會社 秀英舍第一工場



發行所

電話新橋二六〇五番  
振替貯金口座二〇九八七番

兵事雜誌社

東京市赤坂區表町二丁目一番地



訂正増補第三版發行

研究會著

# 大正野外要務詳解

全八冊

訂正第三版

體裁菊判頁數各卷約三百五十餘頁(平均)製本本製上等クローヌ金文字入定價各一冊 金八十五錢宛郵稅各一冊 金 八 錢

我研究會ニ依リテ新ニ大正野外要務詳解ハ發表セラレタリ、研究會ノ如何ナル人々ニヨリテ組織セラレルヤハ吾人ノ説明ニ俟タズ、其ジテ既ニ江湖ノ知悉セラルル所ナリ、其產物タル戰略戰術詳解ニ見、各操典詳解ニ見、決心問題ト着眼點ニ見、範例的想定ニ見ルモ、其實力、其素養、其研究、其態度ノ如何ニ深奧何ニ、如眞摯何ニ、如熱烈ナルカチ知ラレベシカ軍事界ニ於テ、偉大ナル信賴ト尊敬ヲ得タルノミナ、海外列強ノ視目ヲ集ムルニ至レリ、此ニ於テ、尊信シ畏敬スベキ研究會「大正野外要務詳解」ノ發刊ヲ許容セラ、内容ノ如何ニ豊富ニシテ、確何ニ、如稠密ニシテ詳細ナルカ、而シテ懇切ニシテ、叮嚀ナル其卷數ノ八ヲ數ヘ、頁ノ約三千餘頁ニ達シタルヲ以テ知リ得ベシ殊ニ、誤解シ易ク不可解ニ陥リ易キ點ニ精細ナル説明ヲ加ヘ、且難我野外要務令ノ意義深遠ニシテ、實價ニ稱スベク、大兵統帥ノ要旨ニ論及シ、問ヲ解決スル順序ト方法トヲ示シタルヲ以テ陸軍大學、寶典ト稱スベク、大兵統帥ノ要旨ニ論及シ、軍隊運用ノ眞髓ヲ闡明シ、身軍職ニアル者ノ官ノ上下、座右ヲ離ラサル指針ト稱スベシ、其將軍曰ク之ヲ書人ノ耻辱ナリト本社撰リニ誇大ノ言辭ヲ弄スル眞價ニ稱スベク、大兵統帥ノ要旨ニ論及シ、實ニ缺クハ軍人ノ耻辱ナリト本社撰リニ誇大ノ言辭ヲ弄スル眞價ニ稱スベク、大兵統帥ノ要旨ニ論及シ、

◎發行所

振替貯金東京二〇九八七番  
電話新橋二六〇五番

東京市赤坂區  
表町二丁目一番地

兵事雜誌社

## 軍隊教育界空前の大著!!! (完成)

### 新教育令軍隊教育詳解

全二冊  
上下

體裁菊判頁數約三百頁宛  
製本本製總クロ  
一冊 金七十五錢宛  
小包料八錢

軍隊教育令は改正せられて茲に我が軍隊教育上に一新紀元を畫せり然れども、軍令は一の成文なり之が教育實施者にして至當に之を解し其の精神を闡明して敢て戻ることなく其の指向する所に向つて努力するに非ずんば幾度之を改むると雖も我が軍隊教育は決して大なる進歩發展を見ざるなり此の故に事に教育に於て敢て遺漏なきを期せざるべからず、我が軍隊教育實驗會は努力するに於て敢て遺漏なきを期せざるべからず、我が軍隊教育實驗會は夙に茲に感ずる所あり新軍隊教育令を研究し其の精神を闡明し其の意義を擴充して本社に其の公刊を許諾されたり、我が軍事界は今や戰術戰略書を得るに難からず軍隊教育に關するものに至りては之を得るに苦む是れ本書の特ニ必要にして有益なる所以なり敢て江湖篤學篤業の士に一讀を勸む。

◎發行所

振替貯金東京二〇九八七番  
電話新橋二六〇五番

兵事雜誌社

東京市赤坂區表町二丁目一番地

本書は發行早々大好評を博す

我陸軍教育之基準書!!

# 陸軍教育指針全

體裁ポケット形用字六號  
文字、紙頁八百餘頁  
製本革製本文字入  
全一冊 定價金八十錢  
小包料八錢

教育の諸條規に通曉することは**教育を完全ならしむる基礎**なり然るに其必要なる條規は極めて多く到底之を**諳熟**する能はざるなり之を以てか**成規**を一括して座右に備へ必要に臨み之を繕き以て諳熟の困難に代へざるべからず是れ本社が特に**教育に關する必要成規を網羅し之に内務其他分離すべからざる成規を加へて敢て鉛型に附したる所以なり坊間曲簡令に關する此種の冊子少しとなさず其教育に關するものに至つて則ち本書あるのみ江湖の諸賢希くは一本を其座右に備へ以て國家教育に遺漏なきを期せられんことを。**

## ●發行所

振替貯金東京二〇九八七番  
電話新橋二六〇五番

兵事雜誌社

東京市赤坂區表町二丁目一番地

## 御待兼の訂正大増補第十版發行



體裁四六判半裁。頁數一千餘頁  
製本本製金文字入。附圖並箱附  
全一冊 金壹圓 小包料金八錢

余ヤ不敏固ヨリ人ノ師長ヲ以テ自任スル者ニアラサレトモ俛仰ニシテ陸軍大學ノ門ヲ出テタルノ光榮ニ浴セルヲ緣トシ往々青年將校諸子ノ推獎ヲ受ケ學術上ノ研鑽實疑ニ贊同應答スルノ任ニ當ラン事ヲ懇請セラル之ヲ二三同學ノ僚友ニ聞クニ亦同様ナリトイフ是ニ於テ吾人相圖リテ一個ノ打合セ研究会ヲ組織シ方今最先ノ急務トシテ屢々依頼ヲ受ケタル陣中必携ノ材料ヲ蒐集セリ其ノ範圍ハ固ヨリ軍事全般ニ亘リ原則ノ研究ニ應用作業ニ野外ノ實施ニ計畫施設ニ必須事項ハ悉皆之ヲ網羅シテ遺漏ナカラシメンコトヲ期セリ此ノ如キ事業ハ一人ノ力ヲ以テシテハ容易ニ功ヲ舉ヘ難キ處アレトモ幸ニシテ數人ノ戮力ヲ得タル結果備重偏傾ノ失ヲ免ルルヲ得タルハ余ノ欣喜ニ堪ヘサル所ナリ。而シテ當初ノ所期ハ勿論之ヲ世ニ公ニセントスルニアラス以テ萬學ナル知己ノ懇請ニ聞イテトスルヨリ他意ナカリシガ兵事雜誌社主編マ之ヲ耳ニシ來リテ余ヲ訪ヒ之ヲ秘シテ僅ニ二三子ノ便ヲ圖ルニ止ムルノ理由ナキナリ且ツ熱心ナル研究者ガ千金ノ時間ヲ費シテ傳寫ヲ爲スノ徒勞ヲ吝ミ切ニ之ヲ鉛製ニ附シテ以テ廣ク同好者ヲ益セン事ヲ請フ余等其ノ事ノ意外ナルヲ思フト雖モ事公益ニ存ストセハ又強ヒテ之ヲ拒ムノ辭ナ有セス即チ更ニ嚴重ナル選擇ヲ施シテ終ニ之ヲ公刊スルニ至レリ。終ニ臨ンテ余ハ表紙ニ刻セル徒歩計ヲ紹介セサルヘカラス是ハ千々和中尉ノ新案ニ成リ陸軍戸山學校ノ之ヲ採納セルモノ頃者噴々タル好評ヲ有ス本書ニ其ノ使用法ヲ附録セルカ故ニ讀者熟讀シテ之ヲ實驗セハ考案者ノ功績ノ偉大ナルヲ認ムルヲ得ヘシ即チ之ニヨリテ距離ノ測定ト距離ニ適應スル運動ノ計畫ト正確ニスルヲ得ヘシ余ハ陸軍戸山學校並ニ考案者ガ之ガ版權ヲ寄與サレ本書ノ價價ニ一段ノ重キヲ加フルヲ得シメラレタル好意ヲ感謝スル者ナリ。

五月吉日

著者ノ一人識

## ◎發行所

東京市赤坂區表町二丁目一番地  
(電話新橋二六〇五番)

兵事雜誌社

# 教育者と被教育者 全

體裁 四六判  
紙數 約三百頁  
正價 一冊 金五十錢  
郵稅 四錢

凡そ世に教育程ど難事なるものなし此難事の任に當る幹部は一刻も之が研究を忽せに爲すべからざるは今更茲に喋々するを要せざる所なり然るに被教育者の爲めには何々教科書、何々問答と稱する参考書數十種あれども尤も肝要を感じ尤も緊要なる教育者と被教育者との連鎖たるべき眞摯なる参考書に至りては未だ世に公にせられたるもの尠なし是れ頗る難事たるにあらざるなきか本書は著者が 多年の隊附勤務中に於て各種の教育に従事し教育者として又被教育者として知得せざるべからざる諸件を實地に就き研究したる事項を網羅し同好相會する軍隊教育實驗會に研究資料として提出し研究したる其研究録なれば實に得難き好参考書なり。

東京市赤坂區表町二丁目一番地

## 發行所

電話 新橋二六〇五  
振替貯金口座二〇九八七

兵事雜誌社

軍隊教育實驗會著 第三版發行

# 新兵教育の實驗 全

體裝 四六判  
紙數 約二百餘頁  
全一冊 金三十錢  
郵稅 六錢

世ニ實驗ヨリ貴重ナルモノナシ典令教範ハ一字一句モスベテ過去ノ實驗ノ積集ナラザルハナシ典令ノ典令タリ教範ノ教範タル價值固ヨリ此ニ存ス、カルガ故ニ教官トシテ典令教範ノ命ズル所ヲ完ウセンニハ教官自身多大ノ實驗ヲ積ミ以テ典令教範ヲ産出シタル過去ノ實者ノ辛苦ヲ體得セザルベカラズ本書ハ實驗會ヲ組成セル著者數氏ガ新兵ノ教育ニ従事スル間ニ這般ノ辛苦ヲ嘗メテ積集セラレタル結果ヲ持チ寄りニ之ガ是更非得失ヲ攷究シテ研鑽ヲ遂ゲタルモノ其ノ實驗ノ經過ヲ著述セラレタルモノ其ノ注意微ニ入り細ヲ穿チ一舉一動モ徹底セザルモノナシ即チ

緒論—助教助手—助教助手ノ人選及ヒ配合—助教助手ノ教育—(精神教育—學科教育—術科教育)—助教助手ノ統御及指導—班ノ編成及古兵ノ統御—新兵ノ操縦法—教育實施一般ノ要領—精神教育—(敬禮演習)—術科教育(體操—各個教育—其ノ他諸教練)—學科教育—新兵指導ニ關スル細件—結論等ノ諸大項目ヨリ成リ全篇貴重ナル實驗ノ結晶ナリ今ヤ新兵教育最重要期ニ際シ其ノ稿本ヲ請ヒ得テ印行スルヲ得ルハ斯界ニ多大ノ貢獻ヲナスモノナルベク本社ノ大ニ光榮トスル所ナリ。

東京市赤坂區表町二丁目一番地

## 發行所

電話 新橋二六〇五番  
振替貯金番號二〇九八番

兵事雜誌社

教育者は必ず本を書き手にすべし

陸軍少將 野口坤之閣下校閱  
陸軍歩兵大尉 三澤 活水殿著

◎新刊案内

# 中隊の家庭教育

體裁四六判紙數約百八  
拾頁製本本製金文字入  
全一册 金四十錢  
郵税 金六錢

軍隊生活を以て一種の家庭生活たらしむる事は是れ内務書の命ずる所にして我が國軍をして一層の元氣を湧出せしむる所以の源泉なり但し言ふは易く行ふは難し日常の生活を如何にして此新理想に適はしめんか其の方法手段に至りては卓越なる見識と緻密なる實驗とに須たざるべからざるものにして一朝一夕に案出し得らるべきに非ざるなり本書は著者の熱心なる考察と多年の經驗とを基とし其の蘊蓄を傾倒して記述せられたるものにして一言一句實際の必要に觸れざるものなく微に入り細を穿ち悉く人を首肯せしむ實に軍隊家庭の慈父慈母たり又嚴師畏友たる良書といふべし將校下士諸君は坐右必ず一本を備へらるべし平生の疑團漠然として氷釋せらるる者あらん

電話 新橋二六〇五  
振替貯金口座二〇九八七番

## ●發行所

兵事雜誌社

## 卷頭最新御尊影

# 明大元帥陛下 御製

體裁菊判四截  
數約百五十頁  
本クロイス金文字  
入大和綴全一册  
郵税 二二錢

大行天皇陛下登遐ましまし、杳に人天を隔てせさせ給ふ。普天の下卒土の濱萬人衆洵に惶み懼れ且は臣下の省裡、偏へに御聖徳を畏くも懷慕し奉る。微臣同人亦惻々の衷情に堪ゆる能はず。乃ち謹み肅みて遺させ給ひし御製を蒐めまつり朝夕捧持拜誦して、仁慈崇徳眞に限りなき聖旨を拜し奉り、竊かに奉悼の素懷をやる所あり、今茲に之を諸賢に頌ちまらせ、與に共にをしのびまいらせむことを希し、軍人草がうへを軫念あらせられ、或は修ふ。載せまつりたるもの専ら軍人草がうへを軫念あらせられ、或は修身の大道を垂示あらせられたるなどにつき、概ねその百首を恭し比ひなく御厚かりしに接しまつり。願はくは萬民諸賢が、去り難き哀悼の御遺訓をかしくみ夙夜奉誦して、修養の鑑心を慰むるのよすがに資せられむことを祈る。

將校諸賢は素より特に下士官並に兵卒諸殿の爲め無二の精神修養聖書として御拜誦を伏希す

## ◎發行所

電話 新橋二六〇五番  
振替貯金口座二〇九八七番

兵事雜誌社





大評好博切賣の第二所出版來りせ

# 統帥心理學全

體裁菊版紙數二百餘頁  
全一冊 金四十錢  
郵稅六錢

天ノ時ハ地ノ利ニ如カズ地ノ利ハ人ノ和ニ如カズト蓋シ古今ノ諸英雄已ニ戰法ノ大綱ハ統帥ノ術ニ存  
メテ英雄ノ心ヲ攬ルニテ之ヲ利用セリ北條早雲ノ三略ヲ講シタルヤ其主將ノ法ハ務  
形式ハ運用ヲ俟ツ而シテ運用ノ妙ハ一心ニ存スルヲ思ヘハ指揮ト云ヒ統帥ト云フモ人心ノ機微ヲ無視  
シテ克ク其効ヲ奏スル無キヲ知リ得ヘシ  
斷雲馳突氏早ク已ニ心ヲ關心研究シツ、古今ノ書籍ヲ涉獵シ數多ノ歴史ヲ引證シ又タ學理ト實證ト  
ニ群衆心理ヲ根柢トシテ研究シ、更ニ統帥ト心理トノ關係ヲ闡明シ一々實例ヲ舉ゲテ之ヲ確證  
スル所ニ近シキヲ以テ、其ノ研究ハ勿論、軍隊統帥ノ職ニアル者ハ是レヤガテ又タ本書  
ノ價値ヲ證スル所以ノモノナリ、苟モ心ヲ此方面ニ潜ムル者ハ勿論、軍隊統帥ノ職ニアル者ハ是レヤガテ又タ本書  
以テ人心ノ機微ヲ伺ヒ之ガ關係ヲ究メサルベカラズ戰術ノ研究ハ之ニヨツテ以テ往キ野外演習ハ之ニ  
果テテ實戰ニシムルヲ得ベシ、大方ノ諸賢徒ラニ此ノ言ノ壯ナルヲ疑ハズ先ツ左ノ目次ニ就テ其實價ヲ認  
メラレヨ

目次  
第一編 群衆心理ノ概要  
第一節 群衆心理ノ特徵  
一、衆ヲ組織シテ活動ナル行動ヲ執ルノ特徵  
二、極メテ激昂シ易キ特  
三、暗示ニ支配セラレ易キ特徵  
四、暗示ノ分類的暗示A誘引的暗示B模倣的暗示C相違的暗示  
第二編 統帥心理ノ研究  
第一節 統帥心理ノ研究ノ意義  
一、統帥心理ノ研究ノ意義  
二、統帥心理ノ研究ノ方法  
第二節 統帥心理ノ研究ノ材料  
一、統帥心理ノ研究ノ材料  
二、統帥心理ノ研究ノ材料  
第三節 統帥心理ノ研究ノ結果  
一、統帥心理ノ研究ノ結果  
二、統帥心理ノ研究ノ結果  
第四節 統帥心理ノ研究ノ結論  
一、統帥心理ノ研究ノ結論  
二、統帥心理ノ研究ノ結論

發行所 東京市赤坂區表町二丁目一 兵事雜誌社  
電話新橋二六〇五番

陸軍歩兵大佐 伊豆凡夫殿講評  
陸軍歩兵大尉 久保茂一郎殿共著  
陸軍歩兵大尉 米田吉之助殿共著

## 一ノ谷源平戰鬪全

菊判 戰鬪圖付  
全壹冊 金二十五錢  
郵稅四錢

往昔源平二氏の覇を海内に争ふや、黨同異伐勢ひ甚だ峻烈を極め、殊に嘉永三年正月、彼の一の谷の  
戰鬪に至りては、源氏の兵力六萬餘騎、二氏の争ひ中最も大なる戰鬪と稱せらる。  
然れども今日よりして之を觀るに、既に年所を経ると遠く、從つて兵器、編成、訓練及戰鬪法に至る  
迄當に霄壤の差あるのみならず、當時の記録頗る詳細を缺けるが爲め、委曲に涉る戰術的動作等に至  
りては、殆ど捕捉するに由無きが如し。是れ後世史家戰術家の常に以て遺憾と  
する所たらずんば非ず。  
本書は即ち之等の要求に應ぜんが爲め、努めて該戰鬪の經過を闡  
明せんと試み、筆を戰鬪前の状況に起して其の地形に及び、攻防兩者の計畫を説いて三草山の戰鬪  
を叙し、一の谷東西北三門の戰鬪を述べて平氏の敗走を弔し、最後に縱横の評論を加  
へたるもの。看者若し之に依りて該戰鬪の古へを忍び、以て攻防兩者の利不利及  
勝敗の數兵員の多寡を論ぜざること、攻撃的精神の優越は、同じく戰勝の一大原因たる等  
を學び、更に困苦缺乏に堪ふるの要、千古を通じて毫も變らざるの一大教訓に接せば、豈當に之を著  
者の本懐とのみ言はんや。

發行所 東京市赤坂區表町二丁目一番地  
電話新橋二六〇五番  
振替貯金口座番號二〇九八七番  
兵事雜誌社





比志島中將閣下序文  
日本武道會編纂

# 劍俠傳

體裁四六版二百餘頁  
舶來上等紙印刷寫  
真版二頁入表裝本  
文字入  
定價一冊 金三十錢  
郵稅四錢

本書は明治維新早々武者修業者として全國を巡歴し千辛萬苦を嘗たる千葉如山氏の一代記を小説的に仕組みたるものにして行文流暢書中武強なる劍話と濃柔なる艶話とを錯述し氏一流の風丰面目躍如として紙上に溢れ忽ちにして波瀾萬疊忽ちにして奇怪百出忽ちにして頤を解いて大笑を發する等人をして應接に違あらざらしめ覺へず一氣呵成に通讀を促がすの妙味あり而して傳中一貫して武道鼓吹に意を注ぎ或は防彈具を發明して各國新聞に記載され清國ノルスタヤイナデロリーニユース新聞の如き世界に得難き發明と迄賞賛せられ其堅忍不拔の精神は一種の名物男を聯想せしめ近代的武者修業談として頗る趣味に富む故に軍人社會其他婦女子に至るまで之れを讀んで面白く感じ且つ益する所鮮少なからざるものあらん希くば一讀の榮を賜はらんことを。

東京市赤坂區表町二丁目一番地

## ●發行所

電話新橋二六〇五番  
振替貯金東京二〇九八七番

兵事雜誌社

## 新刊案內

訂正再版出來

A B 氏 著

# 基本戰術研究錄

附圖附全

體裁四六判上等  
舶來洋紙表裝本  
社ノ新工風ニナ  
ル上等裂地表紙  
定價一冊  
金貳拾五錢  
郵稅金四錢

本書は各兵操典及野外要務令の原則と戰術の原理に基き基本戰術の學理と應用とを説述せしものなり  
其の體裁は支隊の戰況を畫き問題を設け解答を與へ解答を加へ説明を附し論證を立て叙事明晰 講說正確 讀んで飽くを知らず時の移るを覺えず殆んど勞せずして戰術の堂に上るを得せしめ特に兵器の進歩を顧みて最近の戰術に論及し別に當今兵家の研究すべき夜戰の一篇を添へしは所謂『錦上の花』といふべし  
故に一たび本書を繙くときは居ながらにして學識豊富、才幹卓越、指導親切なる兵家の鞭下に立ちて明快なる指導に接するを得るや必せり  
著者は公に名を署するを許さざるも其の技倆、位地及出身に關しては本書の價値と共に窃に畏敬尊信して本社之光榮とする所なり  
本社は有益なる本書を刊行せしは兵家の進歩を世界に表白する一端にして軍國の光華たるに耻ぢざるを喜び併せて本社多年の唱道に背かざる忠實の擧たるを信して疑はず  
若夫戰術上、明確なる根柢を培養し清新なる知識を吸收せんと欲する者は速に一本を座右に備へよ

## ●發行所

東京市赤坂區表町二丁目一番地

兵事雜誌社

陸軍戸山學校體操科長 堀田信直殿校序  
 陸軍歩兵少佐 飯塚華盛殿著

# 白兵の神髓

體裁四六版用紙上等  
 舶來紙頁數百餘頁  
 正價一冊 金拾五錢  
 郵稅二錢

攻撃精神の旺盛は戰勝を産出し戰鬪の決は白兵戰の勇者を以て結ばるゝ戰史の誇する所なり故に**戰勝を期せん**と欲せば必ず先づ攻撃精神の修養、**白兵戰の練磨を期せざるべからざる事は吾人に與へし日露戰役の教訓**なり蓋し攻撃精神は忠君愛國の至誠より發する軍人精神の精華なり即ち軍隊の劍楯は所謂技と共に心を練らしむるにあり。  
 飯塚中尉茲に見る所ありて本書を編し其所信を述ふ、**引證該博所說頗る肯綮に中る故に劍を學ぶ者の指針となすに足る**、宜なる哉出版早々好評噴々たり、進取に富む我か修劍者諸彦早く本書を手にし先制の利を失すると勿れ。

◎發行所 電話新橋二六〇五番 振替貯金口座二〇九八七番 兵事雜誌社  
 東京市赤坂區表町二丁目一番地

## 訂正第四版發行

獨國歩兵大尉 フォンヘルフェルト氏著  
 日本士官學校譯 小島米三郎氏校補  
 日本陸軍歩兵大尉

# 歩兵斥候教育

體裁 裁菊判半截  
 紙數 百八拾餘頁  
 定價 一冊 金拾錢  
 郵稅 金貳錢

本書原本は獨逸陸軍歩兵大尉。フォンヘルフェルト氏の著にして斥候及び偵察の事項に關し有益なる夥多の例證を列舉せり。氏の理論に本づき斥候教育の方法を釋明するや一新機軸を出だしその成績を收むること甚だ速かなりと評せられ單に獨逸に於て好評を博したるのみならず隣國佛蘭西に傳誦せられて噴々の評あり實に現在類書中の白眉とすべきもの我陸軍士官學校に於て抄譯せらるゝに至りたるを以て見るも本書が非凡の價値を有するを知るに足るべし斥候兵の教育に任ぜらるゝ青年將校及び故參下士は必ず精讀の勞を執らざるべからず又獨り歩兵科將校下士にのみ止まるべけんや。

◎發行所 東京市赤坂區表町二丁目一番地 兵事雜誌社  
 電話新橋 二六〇五

### ● 第三版發行

陸軍少將東條英教閣下題字  
埃國陸軍步兵大尉フ・ンフルゼンブルン氏著  
陸軍歩兵少佐坂田虎之助殿摘譯

## 青年將校の職責

轉載四六判表製本クロ・ス  
定價金 三十五錢  
郵税金 四錢

本書原著は埃國に於て好評噴々たるものにして、青年將校の職責を説きて善く肯綮に中り用意周到また餘蘊なきものなり、元原著者所屬の將校團に於ける講話に係り、特に譯者が緻密の解釋と圓熟の筆とを以て言文一致體に翻譯せられたるは愈々以て本書の價値を發揮するに堪へたりと云ふべし、青年將校にして學を修め識を研き恒に修養鍛練して大に爲す所あらんとを期する者は勿論苟も尸位素餐の譏を免れんとする者は必ず熟讀玩味するを要す發行部數に限あり讀者希くは購買の機を失する勿れ

### ◎發行所

電話新橋二六〇五番  
振替貯金口座二〇九八七番

東京市赤坂區表町二丁目一番地  
兵事雜誌社

### ◎廣告

## 下級幹部教育實施資料 全

體裁 四六版  
紙數 百三十餘頁  
全一冊 金十五錢  
郵稅 四錢

軍隊は一大動物なり、將校は其の神經にして下級幹部は其の骨幹なり動物の活動するは神經あるに由る、動物の其の體を支持するは骨幹あるに由る、骨幹たる者、其の任務や大にして其の責や實に重し、故に下級幹部の教育は目下軍隊に於ける大問題の一として當局有志の研究懈ざる所なり。本書は都下有數なる某基本中隊の最も經驗深き尉官が操典の主旨と自己多年の研究の結果と被教育者の技倆とに鑑み編纂せられたる下級幹部教育資料である、固より規定的のものではなく資料的のものとして實施上には斟酌の箇所あり、其解釋の明瞭にして正確、説明の嶄新にして穩當なるを以て教育資料として決して動かざることは疑ひを容るべきでない、操典の實施は下級幹部教育中の最も首要なる科目で其の他の科目は皆附隨である、又制式よりも戰闘動作が教育上六かしい、されば本資料を資料とし一の標準を定め適當に週間に分布排列し學科に術科に實施せられなば其裨益決して少なからざるべし。

著者は記者の強ての懇請を容れられ茲に讀者諸君に此の福音を頒つるの光榮を有するに至りしなり。

### ◎發行所

電話新橋二六〇五番  
振替貯金口座二〇九八七番

東京市赤坂區表町二丁目一番地  
兵事雜誌社

◎廣告

# 戰爭乃片影全

體裁四六版 頁數二百七十餘頁 製本本製金文字  
全一冊 金五十錢  
郵稅六錢

本書の著者は軍人にして文學趣味の藏嗜尤も深しこの世評ある柳雨氏が其從軍日誌中より後進者の爲め最も有益にして趣味ある部分を記念としてものせられたるを今回弊社が懇請して印刷し附さるに至りしものなれば一度本書を手よすれば新知識を得るに共に趣味津津々として時の移るを知らざる好書なり

東京市赤坂區表町二丁目一番地

◎發行所

電話新橋二六〇五番  
振替貯金口座二〇九八七

兵事雜誌社

獨國陸軍中佐アー、フオン、ホグスラウスキー氏著

# 古今戰法全

體裁四六判上等舶來洋紙紙數三百餘頁  
頁詳密なる木版四十餘個入  
正價一冊 金三十五錢  
郵稅 金六錢

本書ハ古今ノ兵制及戰法ノ沿革ヲ簡明ニ叙述シ各戰役ノ勝敗ノ大原因ヲ適切ニ説破シタル者ニシテ參謀本部ニ於テ其戰史研究ノ階梯トシテ缺ク可ラザルヲ認メテ之レヲ翻譯シ周密ナル校正ヲ經テ其成功ヲ告ルヤ本社ニ寄セテ之ヲ世ニ公ニセシム是レ本社ガ我軍事界ノ幸福トシテ喜ブ所ナリ。

戰術ヲ正當ニ理解セシム且ツ其軍職ニ熱中セシムルニハ歴史的ノ講述ニ依ルヲ以テ最良ノ方法トナストハ原著者本來ノ持論ニシテ此書ハ著者ガ一年志願兵出身將校ノ状態ヲ慨シ青年將校及一年志願兵出身將校ノ爲メ特ニ之ヲ著述セル者ニシテ依テ以テ兵制及戰法ノ消長ガ國家ノ盛衰興亡ト如何ニ密接ノ關係ヲ有スルカヲ知ルベク又々以テ現今吾人ノ遵守スル諸原則ノ由テ來ル所ヲ知ルベク實ニ戰史研究ノ良階梯戰術攷究ノ良參考タルノミナラズ一讀ノ下益軍人ノ責任ノ重且大ナルヲ感ジ不知不識自重ノ心ヲ喚起シ研究ノ熱ヲ高起スルニ至ラシム。

◎發行所

振替貯金口座二〇九八七番  
電話新橋二六〇五番

東京市赤坂區表町二丁目一番地  
兵事雜誌社

軍隊教育實驗研究會著

◎將校下士の良師友出づ◎

新教育令  
ニ基キタル  
外野勤務教育全

全一冊

體裁四六版  
金二十五錢  
郵税四錢

本書は軍隊教育中最も困難とする野外の各種勤務に就き研究會員が多年の教育經驗に基き野外勤務の方法、行軍間の斥候、駐軍間の斥候、停止斥候、潜伏斥候、戰鬥斥候、小哨勤務、下士勤務、(三)四)人哨、巡察各種の外衛兵、風紀衛兵等に分ち又之に關聯せる各種戰例を加へ以て教育者の參考たらしめんとしたるものなり其配列及記載法の整然として系統的なること其材料の豊富なること實に本書を措て他に求むべけんやされば本書は將校下士諸君の參考資料として實に一大光明を放てるものにして熱誠なる教育者の是非一本を書架に備ふべし近來隨一の良書なり。

◎發行所

振替口座東京二〇九八七番  
電話新橋二六〇五番

東京市赤坂區表町二丁目一番地  
兵事雜誌社

陸軍大將伯爵 寺内正毅閣下校閱  
日本陸軍歩兵大尉 奥村信猛  
日本陸軍歩兵中尉 平澤耕平共譯  
軍隊教育實驗會増補改訂

新軍隊教  
育令ニ基  
キタル

下士の職責

全壹冊  
體裁菊判半截並  
クロリス金字入  
金十五錢  
郵定 稅價 金十二錢

軍隊は一大動物なり、將校は其の神經にして下士官は其の骨幹なり、動物の活動するは神經あるに由る、動物の其の體を支持するは骨幹あるに由る骨幹たる者其の任務や大にして其の責や實に重し、著者歩兵大尉奥村信猛氏夙に下士教育に傾心し、頃日獨國下士勤務といふ一書に據り參酌損益して本書を著述せられたり、記載の事項は下士官の任務、種々の場合に於ける處置、部下の教育及統御に關する方法、心術等一擧手一投足の勞に至るまで巨細漏さず、周到着實の筆を以て極めて平易懇篤に説述せられたるもの、實に本邦下士の寶庫として一日も座右を離す可からざるものなり今や梓成りて之を發行するに至れるは本社之幸榮とする所なり、讀者一閱して眞價を判せよ

◎發行所

東京市赤坂區  
表町二丁目一番地

兵事雜誌社

兵事雜誌社出版略目

Table listing various military books with columns for author (著者), translator (譯者), title (書名), volume (冊数), price (正價), and publisher (郵税). The table is organized into two main sections, with the right section containing more titles and the left section containing fewer titles.

エト5N35

井上 大尉著	大原 少佐著	B M 氏譯	奥田 大尉著	A B 氏著	東條 中將著	吉野中佐校正	I M 氏著	某氏の著	某氏の著	深美 大尉著	井上博士講演	巖山氏著	石村 教授著	宇野 教授著	武田少將校閲	横井先生校閲	木村中佐講述	若林 少佐著	本社編輯	丸山 著	
下等兵士學科教育應用問答 全一册	步兵の攻撃卷の一	戰場に於ける歩兵の隊形及運動	基本戰術の應用卷の一	基本戰術研究錄 全一册	新獨立歩兵操典對照私解 全一册	獨逸機關銃射擊教範 全一册	戰爭と外交 全一册	兵器學試驗問題解答全	新式火砲 全一册	軍隊服務要覽 全一册	武士道 全一册	朝鮮半島の天然人 全一册	讀法誓文衍義 全一册	軍隊新算術 卷の上	軍人格言例證 全一册	內務百傑 全一册	漕艇案 全一册	海軍生活 全一册	軍隊生活 全一册	武田中尉	呼鳴
三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三
那須會著	無名氏著	本 社 編	教育總監部	同	同	同	本社編輯	同 師 部 編	同 師 部 編	同 師 部 編	同 師 部 編	同 師 部 編	同 師 部 編	同 師 部 編	同 師 部 編	同 師 部 編	同 師 部 編	同 師 部 編	同 師 部 編	同 師 部 編	同 師 部 編
帝國國難の夢 上中下	兵營日記 牛の巻 全二册	東洋の大波瀾 全一册	清國動亂史 全一册	下士特別國漢文教程 全一册	下士特別地理學教程 全一册	下士特別歷史學教程 全一册	清韓兩國地圖 全一册	在郷將校心得 全一册	在郷軍人必携 全一册	近衛歩兵第二聯隊眞影 全一册	雪中強行軍寫眞額面 全一枚	進化せる幕的 全一册	游泳教育 全一册								
三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三

發行所

兵事雜誌社

東京市赤坂區表町二丁目一番地  
電話新橋二六〇五番  
振替貯金口座二〇九八七番

93



終

